

みんなの
ための
学校長会に



校長会HP

茨城県 学校長会広報

第262号

発行者
茨城県学校長会
会長 鈴木 宏一
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

第4期中期教育ビジョン（第3年次）

特集 各部・各委員会の構想 新会員紹介



目次

○表紙写真に寄せて……………	1
○会長あいさつ……………	2
○令和七年度本年度の活動の方向性……………	2
○特集「各部・各委員会の構想」……………	3
○特別寄稿「自らの人生を舵取りする 力の育成に向けて」……………	4
○茨城県学校長会基本方針及び 第四期中期教育ビジョン……………	7
○課題「社会に貢献する 学校であるために」……………	8
○市町村教育委員会と学校長会……………	9
○提言二題……………	10
○経営研究……………	11
○「創意と活力に満ちた学校経営」……………	16
○特集「新会員の抱負」……………	30
○再任会員名簿……………	30

真壁を愛し 未来を拓く人の育成

桜川・真壁学園義務教育

齋藤 守一

真壁学園義務教育学校は、谷貝小学校・樺穂小学校・桜川中学校・桃山学園が統合し、本年度開校した学校です。この統合により、歴史と伝統の町「真壁」にあつた全ての小中学校が一緒になりました。学校教育目標を「真壁を愛し未来を拓く人の育成」と設定し、「居場所づくり絆づくり我らの学校づくり」を今年度の重点施策に掲げ、八二九名の児童生徒、八〇余名の教職員が一丸となり新たな歴史を創造して参ります。

校長の存在価値

茨城県学校長会

会長 鈴木 宏一

(水戸・三の丸小)

「先行き不透明な時代」「予測困難な時代」という言葉を目にする機会がよくあります。

よく考えてみると、いつの時代もその先ことは分かる由はありません。

私たちが教員になった三〇数年前、今の教育環境を予想できたでしょうか。「少子化に伴う学校の統廃合」「教員の成り手不足」「GIGAスクール構想」「教員の働き方改革」など当時は考えてもみなかったことです。

「学校」としての「先行き」を考えて学校経営をしていくことも大切ですが、まずは「目の前の子どもたちや先生方をどうするか」を忘れてはなりません。

各学校の不易の部分(特色)を整理し、現状をとらえた勇氣ある学校改革ができるよう、市町村を含めた学校長会が知恵を出し合い、お互いのためになる学びの場にしていきましょう。

加えて、自校の人財育成や教育課程など、しっかりとした意味づけのあるビジョンを示すことで私たち校長の存在価値が高まると思います。

本年度の活動の方向性

令和五年六月に「第四期教育振興計画」が閣議決定され、「持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」の二つのコンセプトが示された。子どもたち

のウェルビーイングを高めるために教師をはじめとする学

校全体のウェルビーイングが重要である。子どもをはじめとする

学校全体のウェルビーイングが家庭や地域、社会に広がり、

その広がり将来にわたる持続可能な社会の形成につながる。

茨城県では、「活力があり、県民が日本一幸せな県」を基本理念とし、次世代を担う「人財」や

「魅力ある教育環境」、「自分らしく輝ける社会」の実現を目指し、学校教育において、社会の

変化を前向きに受け止め、他者との協働により課題を解決し、

よりよい社会の創造に貢献できる子どもを育成することを求めている。

私たち校長は、国や県の基本

理念や方向性を念頭に置き、校長自らがリーダーとしての役割と自覚を再認識し、各学校や市町村学校長会において諸課題解決のための具体的なビジョンを示すことがこれまで以上に求められる。そのビジョンの達成のために家庭、地域、行政等と積極的にいかわりをもちながら、

具体的な取組や検証を通して、よりよい教育環境の整備に努めていく。

茨城県学校長会は、県内六三

三人の各校長の強みを最大限に生かし、基本方針と第四期中期教育ビジョンに示した今年度の活動目標の具現化に努め、次世代につながる教育環境の整備を図る。



【今年度の重点】

<第4期中期教育ビジョン(3か年(令和5～7年度)活動目標3年次)>

次世代を担う「人財」を育成し、新しい時代の学校教育を推進する

<視点1> 行政との連携	<視点2> 学校の取組
「人財」育成のための働きかけ ○教員免許更新制の発展的解消に伴う「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた仕組みの構築 ○質の高い教育実現のための人的配置に向けた調査研究 ○管理職(スクールリーダー)育成のための連携強化 ○教職をめざす人財確保のための教員の魅力発信についての連携強化(大学等) ・大学や教職大学院等との連携したインターンシップ、ボランティア等の積極的な受入 ・教職の魅力を広く伝えるための広報活動の強化	教職員の「人財」育成 ○教職員の資質・能力向上のための校内研修の充実 ○教職員一人一人との対話に基づくキャリアステージに応じた研修の奨励 ○教師の主体的な学びのためのマネジメント ・研修受講履歴記録システム「Plant」の効果的な活用 ・教師が学びに専念できる環境整備 ○専門的な知識や技能を生かすための教育委員会、大学、各種団体との連携 ○学校における働き方改革の推進

【茨城県学校長会の「価値・意義」】

「連携」：新たな出会いと確かなつながり 対話・議論 次世代への接続

「学び」：校長自ら学び続ける姿勢 新しい情報の収集・整理 各校長会が学びの場

「発信」：学校・家庭・地域・行政等への発信 「動かせる力」があることの自覚

各部・各委員会の構想

小学校部会



これからの校長の マネジメントに求められるもの

部会長 鈴木 宏一
(水戸・三の丸小)

中教審答申や部会等では、これからの学校教育の在り方について全般的に示されています。

特に、改訂される次期学習指導要領は、校種や各教科等を超えて整理されてきています。

改訂に向けた議論の論点の一つに「学校設置者(市町村教育委員会)や学校の裁量の拡大」があります。

標準時間数等については、教育課程編成上、市町村教育委員会や学校の裁量が拡充できることや、小学校においては一単位時間四五分の授業時間も、積極的に四〇分の活用をするよう示されています。

各市町村や地域、学校の多様な実態に対応できる教育課程の編成が可能になっていく時代になります。

このことは、校長のマネジメントが教育課程編成大いに発揮されるものであり、学校の取

組そのものが、より校長の評価につながっていくことを意味するものと考えられます。

「特色ある学校づくり」や「学びの質を上げること」などを進める上で、次期学習指導要領に掲げられた「裁量の拡大」は学校にとって追い風になるかもしれません。

気を付けなければならないのは「裁量の拡大」は教員の働き方改革のためというとなれば、本来転倒になってしまいます。

一単位時間を四五分から四〇分にできた場合、教職員がゆとりをもてる教育課程が編成され、質の高い教育活動を展開することも期待されます。教職員がゆとりをもって、指導にあたる環境整備が結果的に働き方改革につながっていくというのであれば意味づけができます。

改訂後、裁量が拡大することについては、市町村教育委員会

や校内で熟議を繰り返しながら、自分の学校にあった教育課程の編成ができたとき、その学校の特色がこれまで以上に明確になっていくと思います。

特に、感性が大いに育ち、感受性豊かな子どもがいる小学校では、今後教育課程を編成する

上では、様々な取組が考えられるこの「裁量の拡大」には期待するところです。校長先生方のマネジメントについても共有できる小学校部会にしていきたいです。

中学校部会



県中学校長会の 「価値・意義」を大切にした 課題解決の議論を

部会長 藤枝 祥子
(水戸・第二中)

茨城県中学校長会の「価値・意義」として、「連携・学び・発信」が校長会長より示されました。

また、全日本中学校長会総会では、運営方針の一つとして、「文部科学省をはじめ関係諸機関等との連携を深め、国の諸改革の動向を踏まえて適切な対応に努める」と示されました。

総会後の文部科学省からの説明では、中央教育審議会諮問の検討の前提にもある「質の高い教師の努力と熱意に支えられ生まれた成果」を認めたいうえで、これからの教育の在り方を考え

ていることが分かりました。

しかし、校務DX・教育DXの推進、いじめ・不登校対応について、部活動の地域連携、次期学習指導要領と、取り組むべき多くの課題がありました。

だからこそ、先を見通した計画の中で、今年度は何を取り組むべきか考え、確実に行うことが重要であると感じました。

もう一方で文部科学省の方が力強く「大切なことは三点です。①早期発見②早期対応③組織対応」と述べていたことも印象に残りました。

さて、これらを踏まえて、県中学校長会の中学校部会では、次の二つに取り組みたいと考えます。

一つ目は、先を見通した計画の中で実行するものとして、本年度が最終年度となる第四期中期教育ビジョンを確実に推進することです。「人財」育成について「行政との連携」「学校の取組」の両面で進めたいと考えます。

二つ目は、先を見通して取り組まなければならない課題に、早期に気付き、中学校部会という「組織」で協力して、迅速に対応することです。前述の課題に加え、生徒指導、進路事務、修学旅行等、中学校の課題は多いですが、よりよい解決方法を議論していきたいと考えます。

私たち校長は、国の諸改革の動向等について、「学び」続けることなくして、的確な対応を行うことはできません。時には、地域や行政に働きかける「発信」も必要です。課題を真剣に議論し、解決に向け周りを動かす力は、校長同士の確かなつながり、「連携」が重要です。

「連携・学び・発信」を大切に、次につながる、意義のある県中学校長会中学校部会になるよう努めてまいりたいと思います。

特別寄稿

自らの人生を舵取りする
力の育成に向けて

教育庁学校教育部義務教育課

副参事 太田 雅彦

「人生一〇〇年時代」の到来や労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換により、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増しています。」

これは、令和六年十二月二

五日付けで文部科学省が中央教育審議会へ諮問した「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」の中で述べられているものです。県内すべての子どもたちが、自らの人生を舵取りする力を身に付けることができるよう、教育活動を一層充実させていきたいと考えています。

私たちは今、人口減少や少子高齢化、気候変動、デジタル化などの技術革新による社会の大きな変化に直面しています。

そのような中、社会の変化を前向きに受け止め、他者と協働して課題を解決し、よりよい社会の創造に貢献できる子どもを育成することが重要となっています。

県では、「活力があり、県民

が日本一幸せな県」の実現を目指して、国際教育や理数教育等の充実を図りながら、新たな課題を解決するための高い創造意欲や、あらゆるリスクに對しても果敢に挑戦する起業家精神をもち、地域や社会を支え、世界で活躍できる「人財」の育成に取り組んでいます。

令和七年度の学校教育指導方針に示したとおり、学校教育推進の重点である「すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくり」に向けて、各学校には、「未来を拓く学びの展開」をお願いしているところです。その実現のためには、問いの発見と解決に重点を置く探究的な学びを充実させていくとともに、AIも含めたICTを効果的に活用することが重要です。また、未来を拓く学びを展開していくうえで必要なこととして、カリキュラム・マネジメントを確立するほか、安心して学べる環境を保障することも大切な要素となります。

校長先生方は、それぞれの学校で、如何にして実現を目指していただいているでしょうか。

また、今年度の学校教育指導方針では、児童生徒が安心して学べる魅力ある学校・学級づくりに向けて、どのような取り組みにいかればよいのかを紹介しています。魅力ある学校・学級づくりに向けては、特別活動等による「集団づくり」や各教科の「授業づくり」を通して、全ての児童生徒に活躍の場と互いに認め合う機会を確保することが大切です。教職員の支援の方向性を、ささげながら、支える「ヘシフト」しながら、各教科と生徒指導を一体化させた授業づくり・集団づくりを進めていただきたいと考えています。

こうした教育活動を展開していくためには、言うまでもなく、校長先生方がリーダーシップを発揮され、学校の組織マネジメントを十分に機能させていただくことが重要となります。

学校内はもとより、学校外の地域、市町村、県、そして国や世界の変化を的確に把握し、学校経営に反映していただくとともに、AIも含めたICTを効果的に活用することが重要です。また、未来を拓く学びを展開していくうえで必要なこととして、カリキュラム・マネジメントを確立するほか、安心して学べる環境を保障することも大切な要素となります。

校長先生方は、それぞれの学校で、如何にして実現を目指していただいているでしょうか。

行 財 政

第四期中期教育ビジョンの
具現化に向けて

委員長 朝日 広一

本委員会では、行財政上の諸問題に関する調査と研究を行い、「教育行政に関する要望書」を作成し、県学校長会として、県教育委員会教育長へ提出する活動を行います。

次世代を担う「人財」を確保育成し、新しい時代の学校教育の推進を目指します。そのためには、教員志願者を増やし優秀な新規採用者の確保、教職員の待遇改善による定数確保や「新たな教師の学び」の実現に向けた研修体制の構築、切れ目ない支援体制を図るための特別支援教育の充実等、本委員会では現場の声を集約し、要望書へと反映させていくことが我々の責務と考えています。

今年度は、「第四期中期教育ビジョン三か年計画」の三年次になります。「令和の日本型学校教育」を一層推進していくため、教職員の資質向上を図る取組やGIGAスクール構想の更なる取組等を踏まえ、教育施策の改善と有効性が図れるよう要望活動を進めてまいります。

一 組織

委員長 朝日 広一(水・等原中)

二 活動内容

(一) 教育課題解決のための諸施策に関する調査研究

① すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びのために
② 「人財」育成と学校組織の充実を図るために

③ 充実した教職生活の実現のために

④ 本県教育の一層の充実・発展を図るための市町村当局への助言について

※ 全小・中・義務教育学校の校長にアンケートを実施

(二) 県への要望活動

① 全校長等のアンケート結果を分析し、要望書を作成し、要望活動を行う。

② 義務教育課との合同検討会により、要望内容の明確化と進捗状況の確認を行う。

法 制



「学校運営必携(十四訂版)」
の発行に向けて

委員長 木村 真理

本委員会は、学校運営上の法的問題に関する調査研究を行い、教職員の法制意識の向上と、円滑な学校経営に資することを目的としています。

本年度は、三年ぶりの「学校運営必携」の改訂の年度にあつていきます。十三訂版を見直し、新しい情報を盛り込んで、十四訂版の発行に向けて活動します。

そのため今年度は、例年県小中学校教頭会「法制研修会記録」と合本して作成している「学校長必携」の発行は行いません。

一 組織

委員長 木村 真理(水双葉台小)
副委員長 野口 孝幸(行北浦中)
同 井橋 憲一(谷部東中)
幹 事 玉淵 智巳(笠友部二重)
同 岡村 直之(水見川中)
小委員 同 石崎 重臣(小川北務)

二 活動内容

(一)「学校運営必携(十四訂版)」の発行

(二)「学校経営上の諸問題」の調

三 活動計画

(一)委員会(五月・三月)

・組織づくり

・活動内容及び事業計画の検討

・今年度事業反省

・次年度の活動計画の検討

(二)小委員会・ブロック別委員研修会(七月～二月)

・学校運営必携改訂原稿の検討・作成

・根拠資料の収集・整理

(三)幹事会

・各ブロックが作成した原稿の最終検討

近年、子供・学校・教員を取り巻く状況の急速な変化とともに、学校に関わる法令や制度も、刻々と移り変わっています。その中で、確かな根拠に基づき、自信をもって教育活動を進めることができるようにするために、一層の法制意識の向上と法令への理解が求められています。丁寧な改訂により、「学校運営必携」が学校経営に役立つものとなるよう努めてまいります。

調 査 研 究



「人財」を育成し、創意ある
学校教育を推進するための
調査活動

委員長 濱谷 一正

本委員会は、教育における今日的課題等について県内各校の調査を行うことにより現状を把握し、県学校長会が課題解決に向けて提言・活動等を行うための資料として、調査結果を提供することを主な目的として活動しています。

今年度は「第四期中期教育ビジョン」の三年目として、前年度及び前々年度の調査結果と比較・検討を行い、実効性のある「人財育成」に向けた研究を推進してまいります。

各調査の結果は、各学校の経営や業務の改善に生かせるように還元いたします。

また、各学校の「特色ある教育活動」への取組を調査し、相互に参考にできるように結果を公表し、各学校の教育活動や研究の改善、活性化の一助としていただく活動を行ってまいります。

一 組織

委員長 濱谷 一正(水鯉淵小)
副委員長 緑川 知良(斐田郷小)
同 志藤 幸也(瀬牛堀小)
同 塚本 桂子(牛牛久小)
同 大山 実花(筑西竹島小)
小委員 水谷 聖美(ひ田彦中)
同 和田 秀彦(常太峰山中)

広 報



会員の情報共有と学校課題
解決の一助となる広報活動

委員長 豊田 かおり

(一)第四期中期教育ビジョンの重点である「人財育成」に向けた調査の実施・分析
〈視点一〉行政との連携

二 活動内容

(一)第四期中期教育ビジョンの重点である「人財育成」に向けた調査の実施・分析

〈視点二〉学校の取組
(一)各校の「特色ある教育活動」の調査
・Webページへの掲載
(二)「勤務実態」に関する調査の継続実施及び分析・考察
・十月における超過勤務時間数等の調査
(四)全連小・全日中への各種調査への協力等
・調査依頼校の選定
・調査用紙等の集約と報告
・研究校便覧掲載校の推薦
※本年度も各種調査へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

広報委員会は、会員相互の情報共有化を図るとともに、現場で直面している課題解決に役立つ「学校長会広報」の作成に努めてまいります。

一 組織

委員長 豊田 かおり(水内原小)
副委員長 桑名 実(稲荷小)
同 石川 真裕美(堀口小)
幹 事 川又 恵美(赤坂小)
同 野村 仁久(さほら小)
校正委員 萩原 知樹(堀原小)
小委員 檜山ひろみ(額田小)
同 小沼 正美(東条大洗小)

同 木村 央(常太世矢小)
同 小濱 靖彦(北茨大津小)
同 川田 寛子(神野東小)
同 高岡 成郎(潮延方小)
同 廣田 晴彦(土・東小)
同 根本 昭和(龍城ノ内小)
同 岩崎 哲雄(平谷野中)
同 山田 聡(三つがの学園)
同 深澤 陽子(守松ヶ丘小)
同 浅倉 慈男(かき浦北小)
同 羽成 栄(稲美浦小)
同 小野澤弘之(古西牛谷小)
同 助川 仁史(妻腰江小)
同 落合 睦美(筑西伊讃小)

同 植竹美代子(桜・雨引小)
同 吉原 寿子(猿・静小)

(二六三号)十一月
特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程

二 活動目標
(一) 学校長会の活動方針・事業等の周知及び情報共有
(二) 会員相互の連帯感(われら意識)の高揚及び情報交換
(三) その他必要に応じた広報活動

三 発行計画及び内容

(一) 二六二号(七月)
令和七年度の活動方向、各部・各委員会の構想、新入会員紹介

Web ページ運営

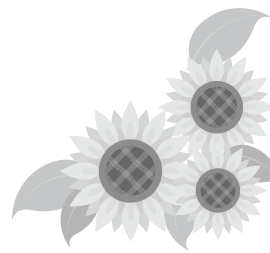


教育の情報基盤を支える 発信力をめざして

委員長 興野 庄一

Society 5.0 時代

を迎え、教育現場にも高度な情報活用力が求められる中、迅速で正確な情報発信の重要性はますます高まっています。本委員会では、オンライン会議の活用や運営方法の改善を進めながら、教職員が必要とする情報を効果的に届ける体制づくりに取り組んでいます。特に今年度は、各支部からの組織情報の掲載依頼等について、昨年度の課題をふまえた改善を行い、より円滑な連携と発信力の向上を目指してまいります。



一 組織

委員長 興野 庄一(水・第五中)
副委員長 大谷 淳(河和中小)
同 岡田 了子(石・園部小)
幹事 小野木清倫(大岡西小)
同 川村 健吉(高田中)
小委員 萩谷 佳之(天・豊田小)

二 活動内容

(一) Web ページを活用した会員のための情報発信
(二) 教育プラザ Web 管理委員会との連携
(三) 掲載内容の検討と定期更新の推進
(四) 「各ブロック・支部」「各委員会」等の資料や活動の成果の掲載

三 活動の重点

(一) 各専門委員会との連携・協力、掲載する内容の許諾及び情報保護のためのパスワード等の有効設定
(二) 過去の情報に関する掲載内容の精選
(三) 働き方改革を推進するための出張や研修等の在り方、オンラインによる会議やオンライン配信の有効活用

四 活動計画

(一) 活動内容の具現化のため、Web ページ運営委員会を随時、オンライン等で開催
・ Web ページ更新に係る規則や組織、更新方法の確認についての検討
・ セキュリティ対策やIDとパスワードの管理の徹底
・ 掲載内容の確認、今後の方針について
(二) 令和七年度の事業の反省及び、令和八年度の計画案の作成
・ 更新情報の周知方法等
・ 今後の本委員会の組織づくりに関する検討
・ 会員が Web ページを開いて閲覧する機会を多くするための方策

教育振興大会

第七六回 大会宣言

茨城県学校長会と茨城県教育研究会は、本県教育の充実・発展のため、永年にわたり互いに連携しながら研究と実践を重ねることで、子どもたちの「生きる力」の育成に努め、着実にその成果を上げてきた。

一方、少子化・人口減少・高齢化等の様々な社会課題、加えて昨今の自然災害の増加により、これからの子どもたちが担う役割はより大きくなると考えられる。そのため、持続可能な社会の創り手の育成や、日本社会に根差したウェルビーイングの向上を教育の力で実現することが求められている。

そこで我々は、学校・家庭・地域社会との連携を図り、誰一人取り残すことなく、すべての子どもの可能性を引き出す学校づくりと、次世代を担う「人財」の育成に向け、令和の日本型学校教育を推進しなければならない。更には、その基盤となる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を確実に育成することが重要である。

本会は、これまでの取組の成果を検証し、課題を明確にすることで、更なる改善・充実を図っていく。

豊かな人生を切り拓くことができる子どもの育成に情熱を注ぎ、魅力ある学校づくりに努めていくことで県民の信頼に応えていく決意である。

ここに、第七六回茨城県教育振興大会開催に当たり、次の事項に全力を尽くすことを宣言する。

- 記
- 1 安心・安全な教育環境を確保する。
 - 1 持続可能な社会の創り手となる子どもを育成する。
 - 1 信頼と期待に応える教職員を目指す。
- 令和7年1月30日
茨城県学校長会
茨城県教育研究会



茨城県学校長会基本方針及び第4期中期教育ビジョン 〈3か年(令和5年度～令和7年度)活動目標〉

1 基本方針

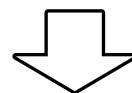
- 1 学校からの教育改革を目指す学校経営の推進
- 2 学校経営の質を高める研究の推進
- 3 茨城県学校長会の組織運営の活性化
- 4 教育諸条件の整備
- 5 関係機関・団体との連携強化

※ これまで取り組んできた精神と業績を継承し、茨城県学校長会の方向性を示したものです。

2 第4期中期教育ビジョン

次世代を担う「人財」を育成し、新しい時代の学校教育を推進する。

※ 基本方針を受けた「3か年活動目標」であり、茨城県学校長会の各組織(専門委員会や支部学校長会)間で連携した活動を通して、校長一人一人の参画型の取組を推進し、結果として「われら意識」を高めていけるよう工夫するためのビジョンです。



【視点1 行政との連携】

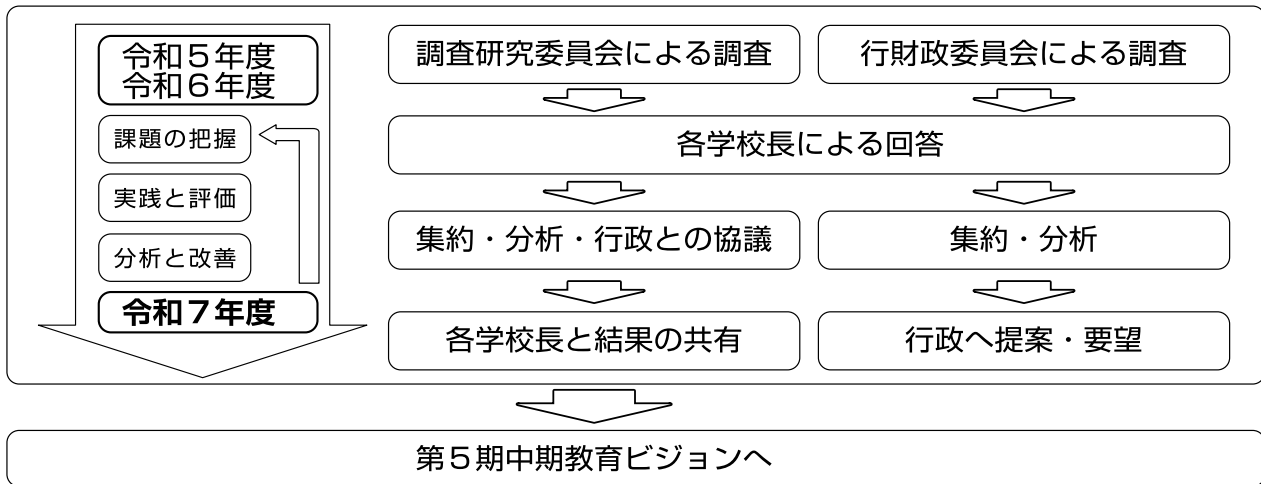
(「人財」育成のための働きかけ)

- ★○教員免許更新制の発展的解消に伴う、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた仕組みの構築
 - ・大学等との連携
- ★○質の高い教育のための人的配置に向けた調査研究
 - ・小学校専科教員の現状把握
 - ・部活動の地域移行に向けた連携
 - ・研修派遣に向けた人的条件整備の充足
 - ・ICT支援員の活用状況と要望
- ★○管理職(スクールリーダー) 育成のための連携強化
- ☆○教職をめざす人財確保のための教員の魅力発信についての連携強化(大学等)
 - ・大学や教職大学院等との連携したインターンシップ、ボランティア等の積極的な受入
 - ・教職の魅力を広く伝えるための広報活動の強化
- 働き方改革に関わる県教委との協働体制の連携強化
- 教職員定数の改善に向けた調査研究
 - ・中3までの35人学級実現に向けた、少人数教育の成果の共有

【視点2 学校の取組】

(教職員の「人財」育成)

- ★○教職員の資質・能力向上のための校内研修の充実
 - ・学校の組織力向上のための、OJTによる研修の充実
 - ・ICT活用指導力の向上に向けた研修の充実
- ★○教職員一人一人との対話に基づくキャリアステージに応じた研修の奨励
 - ・改正「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標」の活用
 - ・個別最適・協働的な教師の学びのための研修機会の確保
- ☆○教師の主体的な学びのためのマネジメント
 - ・研修受講履歴記録システム「Plant」の効果的な活用
 - ・教師が学びに専念できる環境整備(時間の確保、人的・物的資源の提供)
- 専門的な知識や技能を生かすための教育委員会、大学、各種団体との連携
- 学校における働き方改革の推進



3 その他

- 全国連合小学校長会、全日本中学校長会、茨城県教育研究会及び茨城県小中学校教頭会等との連携強化
- 教育振興大会の開催と教育の充実に関する世論の喚起
- 子ども支援茨城連絡会（注1）との連携

（注1） 「子ども支援茨城連絡会」とは、教育関係23団体で構成される全国組織「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会」の下部組織であり、現在のところ、本県では茨P連、茨城県学校長会、茨教組の三者で構成されている子供を支援する連絡会です。

課 題



社会に貢献する 学校であるために

茨城県学校長会
副会長 平子 剛之
（目立・助川小）

魅力ある学校を創るために、経営者たる校長がまず頭を悩ますことは、学校の教育環境を充実させることであろう。「多様な学び」の機会を増やし、魅力ある学校を創っていきたいが、「ヒト・モノ・カネ」が足りない、日々お悩みではないだろうか。「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」へと叫ばれて久しいが、VUCAの時代において、教育はもはや学校だけで完結するものではない。地域をはじめとして、官・民・大学等様々な機関と関わり、それぞれの強みを取り入れることで、自校の課題を解決し、合わせて社会に貢献している学校が増えていくように感じる。

私は県北地域の日立市で勤務している。年間で三三〇〇人を超える人口減少があり、少子高齢化の対策と共に、持続可能な未来を実現するための資質・能力を備えた人材の育成が喫緊の課題である。かつて工都日立として繁栄してきた故郷が、今信じがたい危機に瀕している。

このような先の見えない時代

に求められるのは、正解の無い問いに向き合い、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を導く力である。まさに学習指導要領で謳う「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、受け身の学習から、自分事として疑問や課題を自ら解決しようとする力を磨いていく学びへと変換しなければならぬ。

習得した知識や技能を実社会の課題を解決するために活用して、探究する深い学びのプロセスに移行していかなければと考えるが、学校だけの力では、どうにも立ちいかない。

昨夏、教育を俯瞰的にとらえ改善を図ろうと、経済産業省が主催する「未来の教室」実証事業の報告会に参加してきた。これは、学校と企業を繋ぎ、学校の業務効率化や探究的な学びの推進等に取り組もうと、経済産業省が始めたプロジェクトである。大手企業から学生が始めたベンチャー企業までもが、子供たちの探究的な学びの実現のために尽力していた。例えば、授業の単元計画や毎時活用できるワークシートの提供、テーマ設定・情報収集のための企業とのマッチング・発信や発表に向けたまとめ方の支援などである。

まさに微に入り細に入り学校教育に本腰を入れて関わっている。意見交換する場もあり、彼等と話をしたが、グローバルな知見や学校とは違った独創的な発想、まず実行する行動力、そして何より日本の教育に対する熱い思いに感銘を受けた。

学校は、もっと多くの機関と手を結び、未来を担う子供たちが必要とする力の育成に努めるべきと考える。学区内の人的・物的な資源に差があると周辺の環境に嘆き諦めるのではなく、支援者を求める範囲を広げ、グローバル規模のチームを構築し、連携して取組むことにより、それぞれが抱える課題の改善は図れると思う。

今まさに地域や官・民・大学は、学校とタッグを組みたがっている。学校との共存を切望していると言っても過言ではない。我々は、このチャンスを生かし、積極的に手を広げ多様な業種とともに成果を上げながら、学校の魅力を向上させ、社会に未来に、貢献していこうではないか。

市町村教育委員会と学校長会

日立市

日立市教育委員会
との連携
日立市教育研究所
との連携を中心に

日立・宮田小
皆川 渉

日立市学校長会は、小学校二
三校、中学校一二校、特別支援
学校と義務教育学校が一校ず
つ、合計三七校で構成されてい
る。日立市の教育の基本理念『未
来を拓く人づくり』の実現を目
指し、市教育委員会とともに地
域における教育活動を支え合
い、さらに質の高い教育環境を
構築するために様々な分野で連
携を図っている。

これまでも、毎月一回の学校
長会議定例会において、学務課
長、指導課長、教育研究所長と
情報を共有する時間を設け、市
の施策の内容の確認や課題への
対応等を行ってきた。また、日
立市各課所が主催する各種委員
会等へ分担して学校長会代表が
参加し、学校教育の視点から協
議に加わってきた。さらに、現
場の声や喫緊の教育的課題を協
議書にまとめて提案し、その解
消に向けた協議の場を設けてい

る。

本市独自の取組として、市教
育委員会教育研究所が中核と
なっている各事業での連
携が挙げられる。

一 「教育課題調査研究事業」

市内の教職員に研究調査員が
委嘱され、今日的な教育課題に
関する調査研究を実施し、教育
活動がより円滑に推進できるよ
う成果の普及に努めている。

二 「教職員研修事業」

「職層や経験に応じた研修」
「専門性を高める研修」及び「市
教育研究会との共催研修」等を
実施し、教職員の資質向上を
図っている。研修は主に夏季休
業中に行われ、各学校において
積極的な参加を呼びかけてい
る。

三 「教育相談事業」

学校訪問相談員を各中学校区
に配置。児童生徒、保護者、教
職員等を対象に教育相談を行っ
ている。

また、適応指導教室『ちゃれ
んじくらぶ』を市内二箇所に出
置し、登校についての悩みや不
安がある児童生徒に自立心や適
応力を養い、社会生活への自立
を支援している。

四 「子ども発達相談センター 事業」

特別な支援が必要な子どもや
その保護者に対して、面談、心
理検査、小集団活動を行い、よ
りよい支援の在り方を見いだせ
るようにしている。利用にあ
たっては、当該児童生徒の学校
生活の様子等を共有し、適切な
支援の在り方を共有できるよう
にしている。また、医療機関と
の連携も進み、専門医との相談
等を実施している。

本年度の学校長会は、スロー
ガンに「持続可能な日立市の実
現に向けた創造・連携・実行」を
掲げている。未来の持続可能な
日立市を実現するため、今、何
をすべきかを考え、市教育委員
会とのより密接な連携の在り方
を模索しているところである。

鹿嶋市

鹿嶋市教育委員会
との連携

鹿嶋・鹿野中
太田 雄介

鹿嶋市校長会は、小学校十一
校と中学校四校、施設一体型小

中一貫校一校で構成されている。
また、県立附属中、特別支援学
校、私立中学校の校長先生方にも
研修会の一部にご参加いただ
いている。

毎月一回開催の定例学校長研
修会では、教育長からの指示・
指導があり、令和七年度始めの
研修会では、「鹿嶋市は変革の
ときを迎えている。そしてその
改革は、形だけではなく、中身
を伴ったものにならなくてはな
らない」等のご指導をいただいた。
また、鹿嶋市教育の基本理念「主
体的に学び 人とつながり 未
来をひらく 鹿嶋っ子」の実現
に向け、教育指導担当参事や教
育委員会事務局等と密接な連携
を図りながら、学校経営に努め
ている。

本年度の本市の施策の中から
主なものを紹介する。

一 小中一貫教育の推進

鹿嶋市の小中一貫教育は、平
成三〇年度より施設隣接型、令
和五年度からは、施設一体型の
実践が始まり、今年度からは、
中学校区を対象地域とした施設
分離型小中一貫教育（学園制）を
全市で本格実施する。義務教育
九年間の教育課程の系統性を踏
まえた、よりよい指導体制の構
築を目指している。

二 学力向上の取組

市内全体の児童生徒の学力の
向上を目指し、鹿嶋市授業改善

プロジェクトを実施している。

国語科、算数・数学科、外国語
科、情報教育を、各学園毎に指
定し、大学教授等の講師を招聘
して、研究授業等において具体
的で効果的な指導をいただい
ている。また日常の授業において
も、主体的・対話的で深い学び
を実現する授業改善の視点（ね
らいの明確化、追究意欲を高め
る学習課題の工夫、まとめや振
り返りによる学びの自覚化等）
に基づいて、児童生徒一人一人
に応じた個別最適な学びと協働
的な学びの充実を図っている。

三 学校支援

市教育委員会からの学校支援
のひとつとして、学校において
児童生徒が安全に使用できる生
成AIアプリを全市で導入して
いただいた。小学五年生から中
学三年生までの児童生徒及び教
職員が活用できる体制を整え
て、授業中の意見や振り返りを
集約する場面やAIと英会話の
練習をする場面等で活用をして
いる。その他、市費負担教職員
やALT、学校図書館司書、ア
シスタントティーチャー、校内
フリースクール支援員等の市職
員の配置をいただいている。
今後も校長会と市教育委員会
との連携を更に強め、不透明な
時代を生き抜く、しなやかでたく
ましい子供たちの育成のため
に、様々な取組を推進していく。

提言二題

教育の持続可能性を
地域とともに考える下妻市PTA
連絡協議会会長
森 剛勇

令和七年度、下妻市PTA連絡協議会の会長を務めております、森剛勇と申します。日頃より校長先生をはじめ、教職員の皆様、地域や保護者の皆様には、子どもたちの健やかな成長のためにご尽力いただき、心より御礼申し上げます。また、こうして貴重な紙面を頂戴し、提言の機会を賜りましたことにも、重ねて感謝申し上げます。

学校教育は今、大きな転換期を迎えています。少子化が進行する中で、学びの場をどう守り、地域全体でどう支えていくかが問われています。当市でも昨年度末に「適正規模・適正配置基本計画案」が策定され、地域や家庭の声とともに、学校の在り方が検討され始めています。学校は学びの場であると同時に、地域の絆や安心の拠点でもあり、丁寧な対話と合意形成の積み重ねが欠かせません。

部活動の地域展開もまた、重要な課題です。当市ではすでに剣道部が、今年度からは卓球部がモデル事業として実施されます。教職員の負担軽減や専門性の向上に加え、地域の教育力を再認識し、協働する機運を高める機会でもあります。地域の特性や実情に応じた支援体制の整備が、子どもたちにとって持続可能で豊かな活動環境づくりにつながることを願います。

PTAの役割も変化しています。昨年度、私たち下妻市PTA連絡協議会は、茨城県PTA連絡協議会からの脱退を決断いたしました。これは、地域の実情や保護者の声を反映し、柔軟で自発的な運営体制を目指す前向きな選択でした。行動し、結果を振り返り、改善を重ねて次に生かすPDCAの意識を持続けることが、より良い活動には不可欠だと考えます。

また、本年度から始まった「しもつま未来学」は、地域と連携して子どもたちが働くことや生き方を考えるキャリア教育の取組です。市内の小中学生が地元の企業や団体と関わりながら、実体験を通じて社会や将来を身近に感じる貴重な学びの機会となつていきます。地域の大人との出会いや交流が、子どもたちにとって深い気づきと成長のきっかけになることを願います。

かけになることを願います。教育は学校だけでは担えませんが、家庭、地域、行政や関係団体など、多くの支えによって子どもたちは育まれています。私たちPTAも「つなぎ役」としての責任を果たし、学校と地域の橋渡し役として信頼関係を築いてまいります。

結びに、これまで支えてくださったすべての皆様への感謝を胸に、子どもたちの未来のため、保護者・学校・地域が手を取り合い、ともに歩んでいくことを願い、私の提言といたします。

PTAの負担軽減を
考える大洗町PTA
連絡協議会会長
今泉 貴弘

の提言という得難き機会を得ましたことをこの場をお借りして感謝申し上げます。

私は、大洗南小学校でPTA書記を一年務めた後に単P及び町Pの会長を務めることになりました。就任して感じたことは、大洗町特有の事情かもしれません。とにかく町関連の充て職が多く、その会議等ではどん埋まつていくスケジュールには驚愕しています。単P会長だけならまだしも、町P会長ともなるとある程度自由の利く仕事に就いている人でないと負担が大きいというのが率直な感想です。

私は町P会長として外部に意見を伝える機会があるということとは非常に意義のあることであると思います。色々な経験ができると思いますが、色々と考えていると、誰かが同じ考えになるとは限りません。負担が大きすぎれば担うことを敬遠され、次年度の会長が見つからないなんて事態もありえます。負担軽減のためには、代理が可能なのはほかの役員に振り分け、会長一人が抱え込まないような環境が必要だと思います。

近年、人口減少・少子化に伴い保護者の絶対数も減少し、保護者の置かれている状況も大きく変化しています。共働き家庭

や、ひとり親家庭の増加により家庭内でも時間や労力に余裕がない世帯が少なくありません。PTAの役員会や行事への参加等負担の大きい役員を担うことは敬遠されがちで、今後、担い手不足が予見されます。

PTAの役割や活動内容を見直し、一人一人の負担を減らし、無理なく関われる持続可能な仕組みに変えていかないと、やる気のある人・やれる人だけがやるということでは、その人に負担が集中しやすくなり、その人が抜けたら立ち行かなくなってしまうと思います。

私たちの町Pでも、ICTを活用した情報共有や、総会の書面開催、資料のバーレス化等、見直すべきところは見直し、PTA、学校双方の負担を減らすべく進めています。保護者の参加ハードルを下げ、PTAを「負担」から「協力」に変えていき、無理のない参加でも持続可能な活動ができるような仕組みづくりを進めていけたらと思っています。

子どもたちのより良い学校生活を支えるため、邁進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



児童会が企画した磯遊び

本校の児童生徒は全体的に落ち着いており、学習や行事に意欲的に取り組んでいる。また、異学年

二 本校の現状と課題
本校の児童生徒は「美乃浜」には「美しい海（浜）」という意味以外にも、平磯、磯崎、阿字ヶ浦の三地区を表す「三」と未来への大きな飛躍を表す「未」の意味も込められている。

三 本年度の学校経営
児童生徒が、主体的に活動し、自己のよさを表現することができるようになるためには、子どもたちが自ら考え、行動することが必要な学習環境を整えることが必要である。そのため

四 本年度の取組
本校は昨年度より、特色ある教育活動【茨城県パイロット研究推進校】に認定され、五年間の研究に取り組んでいる。他者から与えられた受け身の知識や技能の獲得ではなく、自ら課題を発見して挑戦し続けられるように、主体的に知識や能力を学び取る力、それらを用いて新たな価値やビジョンを創り出して

一 はじめに
本校は、阿字ヶ浦小学校、磯崎小学校、平磯小学校、阿字ヶ浦中学校、平磯中学校の五校が統合し、ひたちなか市立の学校では初めての義務教育学校「ひ

子どもを真ん中においた笑顔あふれる学校づくり
ひたちなか・美乃浜学園
中原 悟



創意と活力に満ちた 学校経営

たちなか市立美乃浜学園」として、令和三年四月一日に開校し、今年度で五年目を迎える。美しい自然環境の中にあり、

東側には太平洋の海原が広がり、そこには中世代白亜紀層の地層が表出した碧い海が広がっている。また、学校の北側には大型の貨物船が着岸する常陸那珂港があり、沖を走るコンテナ船の優雅な姿を目にすることが

同士の仲が良く、特に後期課程の生徒が前期課程の児童と一緒に遊んだり、優しく接したりと義務教育学校ならではの児童生徒の姿が見られる。

課題としては、自ら学習課題を見出し、解決のための道筋を考え、実践する力が十分とは言えないことが挙げられる。また、人間関係の構築があまり得意



地域の方から学ぶ干しいも作り

いける精神を目指す「アントレプレナーシップ教育」を推進している。

(一) 子どもを主語にした学びへの転換

疑問や感動から「調べてみたい」「解決してみたい」と思える授業づくりを目指している。そのためにも、児童生徒にとって最も身近である地域を教材として、児童生徒が自ら課題を見つけ、計画し、試行錯誤しながら粘り強くやり遂げ、学習の成果を発信することができる学習場面を意図的につくり、自分たちも地域の一員として地域の発展に貢献することができるような機会を設定することが大切である。

(二) 自分の生き方を見つめ、よりよく生きようとする心の育成

昨年度から、児童生徒が主体となった学校行事の企画・運営や校則についての議論が活発になってきている。児童生徒会の役員が各学級から持ち寄った案を基に活発な議論が何度も行われている。その後、教師側との話し合いを経て、学校行事の実施や校則の

見直しが具現化されるわけであるが、これらの過程における、学級活動、児童生徒会活動での自発的・自治的な活動の充実を図っている。

(三)「自分の命」も

「友達の命」も大切にできる心と

体の育成

教師が一人一人の児童生徒理解に努め、みんなが笑顔あふれる充実した学校生活を送れるように心がけている。そのためにも、すべての職員での子どもの見取りを強化することで、不登校やいじめの未然防止を図っていく。また、義務教育学校

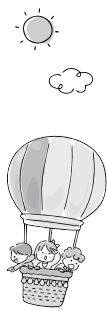
の特色を生かし、九年間を見通した生徒指導を実践していくとともに、異年齢の集団活動を活発化させて、人と関わり合っていく力を高めていくことで、自分も相手も大切に

五 おわりに

本校の教育目標である「豊かな心で 主体的に学び たくま



6年生が企画運営したキャンドルナイト



しくしなやかに生き抜く 児童生徒の育成一人一人が輝き、夢をはぐくむ教育の推進」の実現のため、今後も特色ある教育活動を実践していく。そして、常に保護者の思いや地域の方々の声に耳を傾けた学校運営を心がけ、地域とともにある学校づくりを推進することにも、子どもを真ん中において学校・家庭・地域が一体となつて子どもたちの成長を考える体制を構築していきたい。

人間性豊かで、未来を切り拓く生徒の育成を目指して

神栖・神栖第二中
長峰 正道

一 はじめに

本校は、神栖市の北部に位置し、創立七九年を迎える。生徒数五二二名で、市内では最も生徒数の多い中学校であり、通常学級一六学級、特別支援学級八学級が設置されている。若手からベテランまで、全ての教員が生徒の成長を願い、生徒育成に努めている。

二 本校の現状と課題

生徒は学校行事や部活動に熱心に取り組んでおり、活気を感じる。しかし、学校生活改善を図ろうとする意欲にやや物足りなさを感じている。そこで、重点課題とする学力向上及び長欠・不登校解消と併せて、生徒が主役となる活動の支援を重点的に進めている。

三 本年度の学校経営

学校教育目標は「自律・協働・貢献」人間性豊かで未来を切り拓く生徒の育成」であり、「生徒が成長する学校」をスローガンに、生徒が主役となって各種活動に取り組めるよう学校づく

りに努めている。

四 本年度の取組

(一) 生徒会活動の活性化

生徒が自分たちの手で学校生活をよりよくする生徒主体の活動(Big Upプロジェクト)を進めている。

① 学校生活の見直し

きまりの見直しの他に、生徒会役員選挙に期日前投票を導入したり、各種委員会の設置を見直したりするなどの活動にも取り組んでいる。きまり等を見直すに当たり、学級の意見をもち寄った代表生徒の話し合いの実施、生徒総会によつて生徒全員が見直しの目的を共有し、自分事として見直しを進めてきた。さらに、様々な意見を求め、生徒代表と保護者代表との話し合いも設けてきた。今年度は学校運営協議会委員との話し合いも計画している。保護者や地域の方々と協働しながら生徒が自分たちで学校づくりに取り組

むという意欲を高めていく。

② ボランティア活動

中学生は地域に貢献する力をもっている。本校ではその力を生かし、地域で行われる花苗の植栽や学区内の市の施設で実施される小学生対象のスポーツ体験補助活動に取り組んでいる。特に、市内祭りでの会場ゴミ拾いに力を入れ、きれいな街づくりに貢献している。今年度も生徒会役員を中心に実施を計画している。学校内での活動だけでなく、学校外でも活動する機会を得られることで自己有用感



代表生徒による協議



市内祭りでのゴミ拾い活動

の高まりにつなげている。

③交通安全運動

ほとんどの生徒は交通量の多い国道や狭い道路を自転車を利用して通学している。安全な登下校をするために、教師の支援の下、担当生徒が学級活動で注意喚起したり、下校時に門に立ち安全な走行を呼びかけたりしている。交通ルールの遵守及び危険回避の意識の向上を図っている。

(二)生徒が学び取る授業

今まで、生徒は授業は教わるものという意識であったが教員が授業を見直し、探究的

な学びとなる授業に改善すること

で、生徒が自ら学び取るという意識を高めていく。学びの中で振り返りを特に大切にし、生徒自身ができるようになったことや参考となった見方や考え方を確認し、今後の学びや生活に生かす意欲につなげる。そのため、校内研修会の他、学区内小学

校等教員も協議に参加可能な授業公開（授業力向上WEEK）を計画し、毎学期実施を予定している。

(三)校内教育支援センター

長欠・不登校生徒への支援や集団生活に不安を感じる生徒への支援として設置している。今年度は市教委からフリースクール支援員が新



生徒主体の学習活動

たに配置され、今まで以上に利用生徒が安心して登校できる場となっている。利用開始に当たっては、生徒及び保護者と相談し、個別の支援計画を作成する。生徒は、自己決定した計画表を基に生活している。教員や支援員は生徒を見守る姿勢を大切に（マストをつくらない）、社会的自立に向け支援している。利用する生徒に寄り添うことでセンターが居場所になるとともに、自信をもちはじめ教室に向かうことができるようになった生徒もいる。これ

からも生徒が安心して来室できよう日ごろのアプローチを大切にしたい支援を継続していきたい。

五 おわりに

生徒が本来もっている力を伸ばし、生徒のよさを生かすために、学校全体で生徒一人一人の実態に応じて今後もかわっていくことができるよう、そして生徒がさらに成長できるよう、保護者、地域と一体となつて学校づくりを進めていきたいと考えている。

主体性を育み活力ある学校づくりを目指して

筑西・関城西小
野口 修

一 はじめに

本校は、筑西市の西部に位置し、東に筑波山を臨む自然豊かな地域にある。明治五年に開校し、一五一年の歴史と伝統のある学校である。豊かな自然と温かな地域の方に囲まれ、児童たちは元氣いっぱい過ごしている。現在児童数は二六七名で、通常学級一学級、特別支援学級三学級で構成されている。

二 本年度の学校経営

学校経営目標は「自ら学び、思いやりがあり、健康でたくましい児童の育成」である。特に、本年度は、「体験と交流」を柱に、創意と活力に満ちた学校経営を推進し、児童たちの「主体性」を高めていきたい。

三 本年度の主な取組

(一)地域の方による体験活動
本校の近くに、五郎助山という里山がある。春、秋、冬に分けブロックごとに里山を訪れ、里山を守る会のご協力により、自然観察、ネイチャージム、落ち葉拾い、焼き芋、植樹などの活動を行っている。環境について主体的に考え、環境を守ろうとする態度の育成を図っていきたい。

この他にも、パラアスリート、プロの音楽家・スポーツ選手、外国人留学生、東京都台東区の小学生など様々な方との交流を通して、積極的にコミュニケーションを図ったり、夢について考えたりする態度を育てていきたい。

(二)NIE活動（新聞記事を読んで書き、発表する活動）

本校は長年にわたりNIE活動を継続している。毎週水

曜日の朝の時間を「NIEアワー」とし、新聞を読み、自分で記事を選び、要約をして自分の意見を書く。さらに、発表につなげる。主体的に読み、書き、話す、聞く活動により、アウトプットする力を高め、さらに社会の出来事への関心を高められるようにしていきたい。

(三)地域と連携した防災教育
「自分の命は自分で守る」力を子どもたちが身に付けることが必要である。本校では昨年度、地域の方々との防災訓練を実施した。今年度は、防

Eの九つの委員会がある。これまでの委員会活動を振り返り直し、アップし、「やらされ型」でなく「自分たちから型」に転換を図っている。月一回の打ち合わせでは、活動についての積極的な話し合いを行い、活動計画を立てたり、見直しをしたりするなど活発な意見交換をする。



里山活動

里山活動（卒業記念植樹）

災の学習をさらに進め、「より多くの命を守るために、学習したことを家族や地域の方に伝える」というゴールを設定し、学習を主体的に進めることにした。

(四)児童会・委員会の常時活動

本校には、生活集会、栽培・ボランティア、放送、図書、給食、保健、体育、広報 N I

多くの活動は、自分で考え、自主的に行っている。例えば、栽培委員会が天気などを考え、花への水やりや草取り、レイアウトを考えた花壇の整備を進んで行う姿が見られる。また、今年度は児童会の活動を復活させ、挨拶や清掃、児童集会など児童自らが自分たちの学校生活について考えながら、学校づくりに積極的に参加できる機会を多くし、自己有用感にもつなげていきたい。

(五) 主体的な授業づくり

くり

児童が意欲的に学び、アウトプットする授業づくりの共通実践に努めている。学習規律の徹底、学び方の指導を第一に行い、学びの自立化を図っている。自分で考える時間、意見交換をする時間、相手に伝えたり表現したりする時間、自分の言葉

でまとめ振り返る時間を設定し、主体的・対話的な学びを展開している。今年度は特に、自己決定する場面を大切にした授業を共通実践していく。

さらに、総合的な学習の時間を中心に、課題を設定し、調べ、まとめ、発表する活動を活発化していく。最終的に、「総合的な学習発表会」につなげていきたい。

(六)校長としての活動

月二回、校長室通信「OPEN MIND」を発行し、教職員の授業や学級経営でよ

四 おわりに

児童の主体性を高め、活力ある学校づくりを進めるには、教職員の主体性を高めることが、まず必要である。各プロジェクトや推進委員会、あらゆる機会



NIE活動

で教職員が主体的に考え、自分の意見を提案できるよう、主体性を引き出しながら、働きがいのある職場づくりに努めていきたい。

よく考え、夢を語り、実践力のある生徒の育成を目指して

守谷・守谷中
池田 恭

一 はじめに

前任校の御所ヶ丘中学校は、創立四〇周年を迎え、校舎改修工事、制服の変更など校舎内外



「夢を叶える」講演会

がリニューアルされ、新たな伝統を積み上げています。守谷市北部に位置し、町づくり協議会を中心とした地域の結び付きが強く、活発に地域の行事が行われています。また、中学校区が守谷市のコミュニティ・スクール推進校に指定され、新たな取組が開始されています。そこで、地域との連携を深め、地域の教育

力を最大限に生かす学校経営の在り方を追究してきました。

二 前任校での学校経営

(一) キャリア教育の視点を取り入れた学びの充実

教職員の共通理解のもと、目指す生徒像（「よく考える」「夢を語る」「実践力のある」）に重点



「40周年をお祝いする会」の様子

を置き、取組を進めました。

① 小中連携を基盤とした九年間を見通したキャリア教育の充実を目指しました。共通のキャリア発達の目標を掲げ、全教科の授業でキャリア教育の視点を取り入れた授業づくり（「追究型の課題」「振り返りの充実」）を進めました。

② 目指す生徒像に迫ることができる地域人材の発掘に力を入れ、実際に活用しました。具体的には「夢を叶える」講演会、「創立四〇周年をお祝いする会」を実施

し、夢の実現に向けて努力することの大切さを地域の方や卒業生の講演から学び、成果をあげました。

(二) 中学校区コミュニティ・スクールの取組

「防災教育」と「職場体験学習」をテーマに地域学校協働活動を行いました。

① 地域の防災の拠点である学校を中心に、防災に関する取組を行いました。具体的には、地域と連携した避難訓練・防災に関する学習の実施、防災危険マップの作成などを進めました。

②「職場体験学習」

は、コロナ禍の中で、実施を見送っていました。再実施に向け地域に密着した職場体験の方法を模索してきました。

目的（勤労観、職業観の育成など）を地域の方と共有し、体験学習の充実を図りました。地域の方の理解も進み、次なる連携を創

造する状況になっていきます。

三 おわりに

小中連携を基盤にしたキャリア教育の実践、中学校区コミュニティ・スクールの取組で、地域の教育力の向上へ向けた第一歩が進み始めたと考えています。

現任校においても、地域と連携を模索した経験を生かし、「地域とともにある学校」のよりよい姿を追究したいと考えています。



「学校運営協議会」の様子

創意と活力に満ちた学校経営

新会員の抱負

中 央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
東茨城郡
那珂郡
久慈郡



水戸・城東小
志田 由美子

創立一五二年の歴史と伝統を受け継ぐ本校に再び携わること大きな喜びを感じております。その一方で、与えられた責任の重さに身の引き締まる思いもあります。チーム城東(学校・保護者・地域)が一つとなり、児童が、学習や生活の中で喜びや達成感を味わい、自分の成長が実感できる学校づくりに努めてまいります。



水戸・上大野小
角田 有美子

休み時間には一年生も六年生も先生も一緒に遊ぶ、あたたかい上大野小学校。地域からも「人となかよし・本となかよし・自然となかよし」の合い言葉で支えられています。少人数の強みを生かし、一人一人のよさを引き出し、伸ばしていけるよう、子供を主役に据え、教職員と地域の方々と共に魅力ある学校づくりに邁進します。



水戸・渡里小
大和田 昌夫

六〇二名の元気な児童と、熱意溢れる教職員、協力的な保護者・地域の方々に囲まれ、本校に赴任できた喜びと、同時に職責の重さを実感しております。児童育成のために、「コミュニケーション」「ホンモノ」「イノベーション」の三つのキーワードを合い言葉に全力で取り組んでまいります。



水戸・飯富小
川村 美佳

児童の明るい挨拶が聞こえてきます。明るい挨拶は、飯富の自慢です。「飯富郷土かるた」には、飯富地区の名所や地域の行事、児童生徒の様子が書かれています。札を一枚一枚読み進め、わくわくし、地域への想いを膨らませています。地域の宝である児童を地域の方々、保護者の皆様とともに、全職員で育てていきます。



水戸・大場小
横山 由里恵

特色ある教育活動として「学校体育・保健安全教育」に取り組んでいる大場小学校に勤務できるとに喜びと職責の重さを実感しております。元気いっぱいの子供たちと出会い、一生懸命な先生方、協力的な保護者・地域の方々に支えられ、共遊共学の精神で、笑顔あふれる元気な学校づくりに努めてまいります。



水戸・妻里小
田中 正彦

校舎の窓からは、緑豊かな水田と、要塞のようにそびえ立つショッピングモールが見えます。妻里小学校は創立一三九年を迎え、伝統を守りつつも、時代のニーズをふまえた教育を進めています。「笑顔あふれる学校」を目指し、児童、教職員、保護者、地域にとつて魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。



水戸・飯富中
日渡 義典

生徒と笑顔で交わす朝のあいさつが動機の源泉になっています。創立七十九年の歴史と伝統ある飯富中学校に勤務できることに喜びとともに、その職責の重さを日々感じております。本校の教育目標「たくましさ」に満ち 気品高く ちらもたん」の実現に向け、情熱あふれる教職員と力を合わせて取り組んでまいります。



水戸・見川中
岡村 直之

三歳の時、額を九針縫うけがを負った。中学時、「フランケンシュタイン」と、あだ名をつけられはじめにあった。そんな自分を助けてくれたのは、先生や友人の「大丈夫だよ」という魔法の言葉。

全ての生徒が充実した中学校生活を送ることができるよう、寄り添い、励まし、全教職員で毎日魔法の言葉かけをしていきたい。



水戸・双葉台中
大内 邦明

素直でボランティア精神旺盛な生徒、明るく熱意ある教職員、協力的な保護者や地域の皆様との出会いに感謝しております。『あたり前』のことがあたり前にできる、心身共に健全な「ふたばっ子」の育成」を双葉台中学区の教育目標に掲げ、生徒が安心して学び合える学校づくりに取り組んでまいります。



笠間・宍戸小
渡邊 信幸

創立一五二年を迎える歴史と伝統のある宍戸小学校で、元気で素直な子供たちと明るく熱心な職員と協力的な地域の方々に支えられながら教育活動を進めています。

教育目標の「本気で学び、思いやりの心を持ち、たくましく生きる児童の育成」を目指し、取り組んでまいります。



笠間・北川根小
今瀬 智洋

本校は創立一五二年の歴史と伝統をもち、緑豊かな環境の中で二二名の児童が学んでいます。児童は素直で優しく、下級生の面倒をよく見る姿が日常にあふれています。



笠間・稲田中
安蔵 明弘

豊かな自然に囲まれ、伸びやかに育った素直で優しい生徒たちと協力的な保護者や地域の方々、目標をもって取り組む職員に支えられて勤務できる喜びと、職責の重さを感じています。この稲田中学校に関わるすべての人たちと協力しながら、生徒たちの可能性を最大限に引き出し、魅力ある学校を目指し、尽力してまいります。



ひたちなか・那珂湊第三小
檜山 和寿

明るく、何ごとにも一生懸命に取り組む子供たちと日々過ごせることに喜びを感じています。本校の教育目標「豊かな心をもち意欲的に学び考える 心身ともにたくましい 児童の育成」の実現に向け、そして、全ての生徒たちの幸せのために、先生方や保護者、地域の方々を合わせ、全力で取り組みんでまいります。



ひたちなか・田彦中
水谷 聖美

子どもたちのよりよい成長に必要なのは、心身共に健康な先生方のみなぎるパワーです。ストレスをできるだけ感じさせない職員室づくりを目指して、先生方のよりよいパフォーマンスを引き出すことができるように頑張ります。保護者の皆様と地域の皆様の支援を力にして、生徒一人一人を大切に育てていきます。



常陸大宮・山方南小
益子 悦子

久慈川と山々の豊かな自然、水郡線の汽笛。とても魅力ある環境に、心が洗われる毎日です。山方南小校歌「限りない未来に」には、「ここから始まる自分の地図を」というフレーズがあります。子供たちの輝かしい未来をここから描くことができるよう、また、教職員が働きがいを感じることができるよう、尽力して参ります。



常陸大宮・美和小
眞崎 恒一郎

四季折々の美しい自然に囲まれ、心が和む美和地域で、五人の児童と過ごせることに感謝しております。児童や教職員一人一人が「素顔で活躍し、笑顔になれる学校を創る」を最上位目標に設定し、「子どもの夢や希望、自信」を保障することができるよう、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたいと思っております。



常陸大宮・緒川小
高安 一徳

私の生まれ育った常陸大宮市、そして前任の明峰中の学区である本校に赴任できたことに、深い縁と大きな喜びを感じています。

「みんなよくなる」を合い言葉に、児童・教職員・保護者・地域・関係機関等が共に支え合い、協力し合って成長していける「Well-being」を目指した学校づくりに取り組んでまいります。



常陸大宮・山方中
山田 勝一

歴史と伝統ある山方中学校で勤務できることに喜びと職責の重さを実感しています。教育目標である「自らに誇りを持ち、進んで行動できる生徒の育成」を目指して、生徒が活躍する場面や機会をしかけ、まかせ、認め励ますことを通して、生徒一人一人の可能性を引き出せるよう、全職員一丸となって取り組んでいきます。



東茨城・石塚小
宮本 紀文

創立一五二年の歴史と伝統を誇る石塚小学校で勤務できる喜びとともにその職責の重さを実感しております。

本校の教育目標である「自ら考え、進んで行動し、思いやりある児童の育成」の実現に向け、職員・保護者・地域と協力して、児童にとって楽しい学校づくりに努めます。



東茨城・七会小
村瀬 朋広

豊かな自然に囲まれ、笑顔あふれる児童、子供たちの心に寄り添い教育活動を行う職員、温かく協力的な保護者や地域の方々に支えられて、七会小に勤務できることに喜びと職責の重さを感じています。本校の教育目標「楽しくたくましく生きる子の育成」を目指し、笑顔あふれる学校づくりに尽力します。



東茨城・大洗小
小沼 正美

温かな保護者と地域、そして豊かな自然の中で、元気な子どもたちと活気ある教職員に囲まれて、我が母校である大洗小学校に勤務できる喜びを感じております。本校の教育目標「ふるさとを愛し夢や希望の実現に向けて 力強く歩む児童の育成」の基、関係機関と連携を取り合い、子どもたちを支えて参ります。

本校の教育目標である「自ら考え、進んで行動し、思いやりある児童の育成」の実現に向け、職員・保護者・地域と協力して、児童にとって楽しい学校づくりに努めます。



東茨城・大洗南中
宇陀 定司

新任の地に三十数年振りに戻ることになりました。海を臨み自然豊かな大洗に勤務できることの喜びを感じています。地域・保護者には、若かりし頃に関わらせていただいた方がたくさんいます。感謝の気持ちを忘れることなく、郷土を愛し新しいことに果敢に挑戦できる「大洗つ子」の育成に全力で取り組む所存です。



那珂郡・石神小
須藤 真由美

創立一四八年の歴史と伝統ある石神小学校は、明るく元気な児童、前向きな教職員、温かい保護者の皆様に支えられた、地域に根ざした学校です。「本気・元気・やる気の石神魂」で、「やってみよう!」を合い言葉に、児童・教職員・保護者が共にチャレンジ、共に学ぼうとする学校づくりに全力で取り組みます。

本校は、自然豊かで、四季折々の風景が楽しめます。子どもたちは明るく素直で、何事にも一生懸命、そして、支えてくださる保護者や地域の方たちは、温かくとても協力的です。この村松小に勤務できる喜びを感じています。



那珂郡・舟石川小
横須賀 哲也

勉強も運動も大好きな子どもたち、教育活動へ惜しみなく協力をしてくださる保護者、地域の方々。舟石川小学校に赴任できましたことはこの上ない喜びです。教育的愛情あふれる教職員とともに、組織目標「誰もが『元気』に、そして『笑顔』になれる学校をみんなで作る」の実現に邁進してまいります。



那珂郡・村松小
清水 美奈

本校は、自然豊かで、四季折々の風景が楽しめます。子どもたちは明るく素直で、何事にも一生懸命、そして、支えてくださる保護者や地域の方たちは、温かくとても協力的です。この村松小に勤務できる喜びを感じています。

地域に根差した、温かく魅力ある学校づくりのために、教職員一丸となり取り組んでまいります。



久慈・依上小
小松崎 朱実

素直で元気な子どもたち。学校を温かく応援してくれる保護者や地域の方々。熱意あふれる教職員に勤務できることに感謝しながら職務にあたっております。地域とともに、地域の大切な宝である三名の子どもたちが主役となり、笑顔あふれる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



久慈・袋田小
山野 綾子

雄大な袋田の滝と豊かな自然に包まれた環境の中で、子どもたちは、日々、いろいろな経験を重ねています。保護者や地域と共に支え合い、学び合うことができるこの袋田小で、子どもたちが、合い言葉の「やさしく 元気に すくすく」と成長できるよう、歴史と伝統を大切にしながら、教育を推進してまいります。

雄大な袋田の滝と豊かな自然に包まれた環境の中で、子どもたちは、日々、いろいろな経験を重ねています。保護者や地域と共に支え合い、学び合うことができるこの袋田小で、子どもたちが、合い言葉の「やさしく 元気に すくすく」と成長できるよう、歴史と伝統を大切にしながら、教育を推進してまいります。



久慈・生瀬小
大森 剛

創立三十九年を迎える本校は、児童数三〇名の小規模校ですが、自然豊かな環境に恵まれた学校です。

協力的な保護者や地域の方々に支えられながら、子どもたちのために「多くの感動体験」を与えられるよう、一人一人のよさを生かし伸ばしながら、心温かな学校づくりをしています。

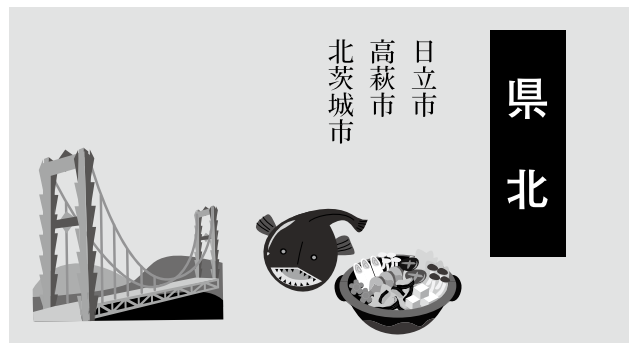


久慈・さはら小
野村 仁

新緑に輝く茶畑と澄み渡った小川、夕暮れの空を映し出す金色の棚田。さはら小学校は奥久慈茶の里で、地域から深く愛され、支えられてきた学校です。子供たちと教職員、そして保護者や地域の方みんなで知恵を出し合い、これまでの伝統に自分達らしさを重ね、生き生きと魅力溢れる学校づくりを努めてまいります。

県北

日立市
高萩市
北茨城市



日立・仲町小
小野 君枝

日立鉾山と大煙突を仰ぎ、美しい桜の木々に囲まれた歴史ある仲町小学校に勤務できることを誇りに思います。

本校の教育目標「強く 正しく 美しく」のもと、熱意ある職員と協力的な保護者や地域の方と共に、素直で勤勉な子どもたちの可能性を引き出し、より成長させていくことに努めてまいります。



日立・大久保小
佐川 和人

休み時間には、「先生、一緒に遊ぼう」等、いつも誘いを受けており、明るい子供たちに囲まれた日々を過ごしております。楽しい学校にしてほしいという願いを、子供たちの様子から感じます。本校は、創立二五〇年を超える歴史と伝統ある学校です。子供たち・保護者・地域とともにある学校を目指します。



日立・大みか小
鈴木 京子

明るく元気な子どもたち、熱心な教職員、温かく協力的な保護者や地域の皆様に支えられて勤務できることに大きな喜びを感じています。「やさしく さとく たくましく 共に輝く大みかっ子の育成を目指し、教職員が一丸となつて、子どもたちが「明日が楽しみ」と思える学校づくりに励んでまいります。



日立・日高小
中嶋 由佳

素直で人懐っこい子どもたち、温かく協力的な教職員、そして協力的な保護者や地域の方々との出会いに感謝しております。日高小学校の校歌には、「ひかりの子ども」という歌詞があります。子どもたちも先生も、安心できる環境の中で自分の力を発揮し、一人一人が輝ける学校づくりを目指し、全力で取り組んでまいります。



日立・久慈小
興野 聖人

日立港に停泊する貨物船を望む校長室から、新たな一步を踏み出しました。伝統ある久慈小学校に勤務できる喜びとともに、責任の重さを日々実感しています。キラキラと輝く子供たちの笑顔こそ、学校の宝。その笑顔を大切にできるよう、教職員一致団結し、力を尽くして教育活動に取り組んでまいります。



日立・駒王中
松原 浩太郎

統合により新しい伝統を築く第一歩を踏み出した駒王中学校で勤務できることに、感謝するとともに職責の重さを感じております。「夢を育む感動体験」を教育理念とし、生徒一人一人が様々な体験を通して学びを深めていけるよう、教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。



日立・松風中
小室 弘毅

本校は坂本中、久慈中の統合に伴い「松風中」として開校しました。二校の良き伝統を継承しつつ、生徒の豊かな創造性をいかして発展させていく所存です。「地域を愛し、夢に向かって挑戦する生徒の育成」を学校教育目標とし、地域に守られている生徒が、地域を支える存在になるよう精一杯取り組んでまいります。



日立・十王中
岡村 克明

十王中学校の学校教育目標は、「ふるさと十王を愛し、未来に向かって、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」です。母校である十王中学校に赴任できて、日々幸せと責任を感じています。

一緒に働く先生方や保護者・地域の方々と協力しながら「ふるさと十王」を愛する生徒の育成を目指してまいります。



高萩・高萩小
田村 きみ恵

創立一五〇年の歴史を誇る高萩小学校で、三〇一名の子どもたちと共に歩めることをうれしく思います。今年度の合い言葉は「自分で考え、一緒に友達と」です。主体性と協働性を大切に、一人一人が自ら学び、仲間と協力するよりよい学校を築いていけるよう、教職員と力を合わせて全力で取り組んでまいります。



高萩・秋山小
酒井 裕隆

明治六年創立の歴史と伝統のある秋山小学校に勤務できることに喜びと職責の重さを感じております。素直で優しい子供たち、熱意ある教職員、温かく協力的な地域・保護者の方々に支えられ、充実した日々を過ごしております。子供たちの成長に寄与できるよう、信頼される学校づくりに全職員で取り組みまいります。



北茨城・中郷第二小
緑川 和良

阿武隈の山なみをはじめ、豊かな自然の優しさにつつまれた本校は、教職員・保護者・地域が一体となって、地域とともにある学校づくりを目指しています。全校児童八二名が、明るく楽しい学校生活を送ることで地域から応援される中二小となるよう、熱意あふれる教職員と共に精一杯取り組んでまいります。



北茨城・石岡小
金野 真一

美しい自然に囲まれ、素直で明るい子供たちが通う北茨城市立石岡小に赴任することができ、大変光栄に感じております。「笑顔・対話・夢の実現」という目標に向け、保護者の皆様、地域の皆様にご協力いただきながら、子供たちがしっかりと成長できるよう教職員が丸となり、全力で教育活動に取り組んでまいります。



北茨城・関南小
稲垣 美紀

今年度、創立一五二年目の伝統ある関南小学校で勤務できることに喜びと責任の重さを感じております。「さわやかなあいさつ」を凡事徹底し、「思いやりの心」「お互いのよさを認め合う」「自分の力を発揮する」の目標に向けて、全職員で取り組んでいくマネジメントをしていきたいと思います。



北茨城・大津小
小濱 靖彦

北茨城市の東部にある古くから漁業で栄えた大津町にある大津小学校に赴任しました。素直で明るい児童、熱意あふれる教職員、協力的で温かな保護者や地域の方々に、日々支えられています。教育目標である「豊かな心をもち自ら学び、たくましく生きる児童の育成」を目指して、教職員と取り組みんでまいります。



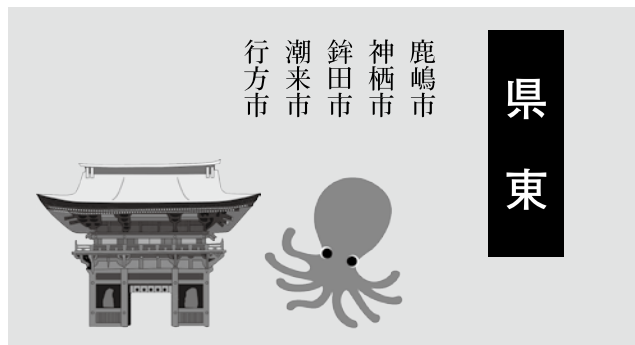
北茨城・常北中
横倉 浩樹

「おはようございます」生徒たちのさわやかな挨拶で一日が始まります。しばらく学校から離れていたからか、こんな当たり前の光景でもうれしく感じています。本校は「さわやか常北」を合い言葉に、多くの地域の方に支えられている学校です。今後もさわやかな挨拶で、地域から愛される学校になるよう努力してまいります。



鹿嶋・豊津小
市村 一弘

豊津小は、眼前に広がる北浦と湖上に立つ優雅な鹿島神宮一の鳥居等、豊かな自然に恵まれた歴史と伝統ある学校です。異年齢集団活動や各行事における地域とのふれ合い活動の充実を図り、小規模校を生かした地域と共にある学校を推進し、児童と教職員、相互のウェルビーイングが実現する学校を目指してまいります。



県東



鹿嶋・大同東小
高柳 かおる

四月七日、子供たちとの出会いの日。校庭での始業式の中で、全力で校歌を歌う児童の姿に心を奪われました。そして、同時に、これまで指導をして下さった先生方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。大同東小学校の児童たち、先生方の素晴らしさを、より一層伸ばすことができるよう、精一杯努めたいと思います。



鹿嶋・中野西小
錦織 百代

児童・職員・保護者・地域、学校に関わる方々みんなが幸せを実感できる学校づくりを展開します。テーマは「笑顔で挑戦」。本校のシンボルツリー多行松のごとく、五五人の児童がたくましく生き抜いていけるよう育てていきます。児童と職員のよさと強みを生かし、地域とともに、児童主体の魅力ある学校をつくります。



神栖・大野原西小
杉本 陽子

シンボルである「時計台」に見守られ、創立三四年目を迎える大野原西小学校で、三九〇名の児童とともに過ごせる喜びと、職員の重さに身の引き締まる思いです。「やれそう・できそう」を大切に、自分の成長、仲間のために」を合い言葉に、児童と教職員の成長を応援できる学校づくりに取り組んでいます。



神栖・須田小
藤代 茂

創立一五〇年目を迎える歴史と伝統のある須田小学校に勤務できる喜びとともに、その責任の重さを実感しております。教育目標である「夢に向かってたくましく」とともに伸びる「須田っ子の育成」を具現化できるように教職員・保護者・地域の皆様とともに、児童主役の学校づくりに全力で取り組みます。



潮来・日の出小
山口 一久

三・四名の明るく元気な子供たちに囲まれ、一日一日を過ごせる喜びと校長としての責任の重さを感じています。「笑顔・思いやり」そして温かな眼差しを「キーワード」として、予測困難な社会を生き抜くための力を身に付けられるように、教職員・保護者・地域とともに教育活動に取り組んでいます。



鹿嶋・大同西小
小野木 清倫

校舎二階の図書室からは眼下に広がる北浦の向こうに筑波山が見渡せます。この自然豊かで、歴史ある大同西小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。本校の教育目標である「一人一人がよさを伸ばし心豊かにたくましく生きる児童」の育成を目指し、教職員一丸となり、全力で取り組んでまいります。



鹿嶋・平井中
遠藤 芳輝

素晴らしい生徒たちと熱意ある教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられながら平井中学校に勤務できる喜びと、職責の重さを実感しております。「認め合う・支え合う・高め合う」を合い言葉に「生徒が安心して生活できる」、「保護者が安心して預けられる」、「教職員が安心して働ける」学校づくりに努めます。



神栖・波崎小
串山 忍

素直で元気な子供たち、温もりのある保護者や地域の方々、歴史と伝統のある波崎小学校の校長であることを幸に思います。校長として、一人一人の職員を大切に、地域と協働しながら、子供たちには「学びがよい」、職員には「働きがよい」、保護者や地域には「頼りがい」を実感していただけるような学校づくりに努めます。



鉾田・旭西小
筒井 直子

明るく素直な子供たちと、前向きで活力ある教職員、そして温かい保護者や地域の方々に支えられ、充実した日々を過ごせていることに感謝しております。本校は、本年度末で閉校を迎えます。旭西小学校で過ごす最後の一年を、一人一人が生き生きと輝き、活躍できる学校となるよう、全力で取り組んでまいります。



潮来・牛堀小
志藤 幸也

「かがやく笑顔」の校訓のもと、元気・本気・思いやりそして笑顔をもっとに、一五九名の児童、教職員、保護者、地域が一体となつて、教育活動に取り組んでいます。校歌にもある「霞ヶ浦」「島崎城」「権現山」の名所に囲まれた素晴らしい教育環境のもとで、児童がいつの日か翼を広げて飛び立てるよう努力していきます。



潮来・潮来第二中
額賀 英彦

素直で思いやりのある生徒たち、熱意ある教職員、温かく協力的な保護者・地域の皆様に支えられながら母校でもある本校に勤務できる喜びと責任の重さを実感しております。

「夢をもち、自ら考動できる生徒の育成」に向けて、怯まずに、誠実に、深刺と教育活動に取り組んでまいります。



潮来・日の出中
大輪 和彦

「心ゆたかにたくましく、有為の人とならんかな」校歌にもうたわれている「心ゆたかに」が本校の校訓である。生徒数は一二七名と少なめだが、皆明るく素直で元気な生徒たちだ。地元の潮来市で校長ができることに喜びを感じるとともに、有為の人の育成を目指して日々、尽力していきたい。



行方・北浦小
石川 タ香里

明るく素直な児童、熱意あふれる教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられながら、本校に勤務できる喜びとともに、校長としての職責の重さを日々感じております。

初心を忘れず、謙虚な姿勢で、「笑顔あふれる学校」を目指し、教職員一丸となって教育活動に取り組んでまいります。



行方・玉造小
麦山 岳男

新採教員として教壇に立った玉造の学校に、校長として再び戻ってこられたことに深い感慨を覚えます。一体感のある素晴らしい教職員チームとともに、学校教育目標「たくましく「ま」ごころをもつて「しょう」来の夢を描く児童の育成」の実現に向け、子供たちの未来を見据えた教育を推進してまいります。

県南

土浦市
石岡市
龍ヶ崎市
取手市
牛久市
つくば市
守谷市
かすみがうら市
つくばみらい市
稲敷郡



土浦・土浦第二小
栗山 雄一

本校は、土浦市の街中にある花がきれいに咲き誇り、歌声響くとてもさわやかな学校です。教職員や子供たちにも活気があり、すばらしい環境で校長一年生のスタートを切ることができました。この子供たち、教職員の可能性やよさをさらに引き出し伸ばせるよう、ワクワク感と責任感をもって学校経営に挑戦してまいります。



土浦・上大津東小
飯田 千枝美

創立一三六年の歴史と伝統ある上大津東小学校に勤務できる感謝と大きな喜び、職責の重さを感じております。笑顔が素敵な子供たち、あたたかく協力的な保護者や地域の皆様、熱意ある教職員を大切にし、共に学び、共に育ち、誰もが幸せになれる、地域とともにある学校づくりに誠実に取り組んでまいります。



土浦・都和南小
成田 栄美

長寿命化改善工事が完了した都和南小学校に三年ぶりに戻ってきました。元氣いっぱいの子どもたち、支えてくださる保護者や地域の方々にお会いし、再び勤務できること大変有難く思います。これからの時代を生き抜いていく力をつけられるよう、子どもにかかわる方々の力をお借りしながら、取り組んでいきます。



土浦・菅谷小
原 広子

豊かな自然と温かい風土に恵まれて勤務できることに感謝しております。今年度の学校経営のテーマを「つながる つながる」としました。地域や保護者の皆様とのつながりを大切にしながら、「人」と「人」、「知」と「知」、「現在」と「未来」をつなげる教育活動に、「チーム菅谷」で取り組んでまいります。



土浦・土浦第二中
岩田 幸一

土浦二中は、地域の厚い支援と愛情を受け続ける伝統校です。「我が母校」への愛着心には、学校の社会的役割が「将来の地域を担う人財づくり」であることに気がかされます。多様化が進展する社会でも「人づくり」という教育理念を忘れず、「子どもファースト」を旗印に、本校職員とともに最善を尽くしてまいります。



石岡・小桜小
荒井 一成

草薫る丘の上にゆつたりと立つ校舎。小桜の子は素直で優しく働き者です。それはご家庭も地域の方も子どもたちに温かく優しいから。学校教育に向ける眼差しも熱心かつ優しさに満ちています。感謝と共に身の引き締まる思いを抱く毎日です。教職員一丸となり未来の「小桜つ子」の育成に尽力してまいります。



龍ヶ崎・城内小
森田 利浩

創立三五年目になる本校は、素直で明るい子供たちが元気に生活をし、地域の方々からも応援されております。

「二人一人を大切にし、笑顔あふれる学校」を目指し、やる気に満ちた教職員、協力的な保護者と地域の方々と共に「現在を生き抜き、未来に羽ばたく人づくり」に向け努力してまいります。



龍ヶ崎・長山小
千葉 幸子

明るく素直な子供たち、協力的な保護者や地域の方々、熱意のある教職員に囲まれて勤務できると、大きな喜びと職責の重さを感じている毎日です。

一人一人の「いいところ」を引き出し、伸ばす教育を推進し、「児童・職員・保護者・地域に笑顔あふれる学校づくり」に、全力で取り組んでいます。



龍ヶ崎・城内中
根本 昭和

屋代城跡が校内にあり、古の風情を感じる城ノ内中学校に再び着任し、保護者や地域の皆様から温かく迎えていただき、喜びとともに職責の重さを実感しております。

校訓「認め合い 支え合う」のもと、情熱あふれる教職員が一丸となって、生徒が主役の学校づくりに取り組んでいます。



取手・山王小
西尾 直美

歴史と伝統があり、特色豊かな小規模特認校として日々躍進する本校に勤務できる幸せと、責任の重さを実感しております。

子どもたちの成長を、教職員と保護者、地域の方々と一緒に育む学校、山王小にあれば笑顔があふれ、誰もがハッピーになれる「みんなの学校」づくりのために、真心を込めて精進いたします。



取手・久賀小
伊津野 和泉

小貝川のほとり、澄み渡る青空の下、体力山を駆け上がり、歓声をあげる子供たちの笑顔は、私の活力の源です。コミュニティ・スクール発足三年目を迎える久賀小学校。その使命を深く自覚し、未来を担う子供たちの幸福のために、学校家庭・地域が一体となった協働体制が一層強固なものとなるよう努めてまいります。

校訓「認め合い 支え合う」のもと、情熱あふれる教職員が一丸となって、生徒が主役の学校づくりに取り組んでいます。



取手・取手第二中
笠井 博貴

生徒たちと笑顔で交わす心地のよい挨拶で一日が始まります。そうした生徒たちにとって、学校が居心地がよく、魅力ある場となるよう、今年度の学校経営の方針を「すべての生徒の笑顔のためにウェルビーイングを実現する」としました。四九〇名の生徒たちの「笑顔」のために、「チーム取手二中」で取り組んでいます。



取手・永山中
酒井 直彦

創立七九年の歴史と伝統を誇る永山中学校に勤務することができ、その喜びとその職責の重さを日々感じております。

「地域連携と信頼に應える学校」「健やかな体の育成」「豊かな心の育成」「確かな学力の向上」への取組を通して、生徒一人一人のよりよい成長のために、教職員一丸となって邁進してまいります。



牛久・牛久小
塚本 桂子

創立一五三年目を迎える歴史と伝統ある牛久小学校に勤務できることを嬉しく思うとともに、職責の重さを感じております。

教師も子供も心を寄せて「聴くこと」、失敗を恐れず「挑戦すること」、そして「自分も他者も尊重すること」。この三つを大切に、教師も子供も輝ける、温かい学校づくりを進めてまいります。



牛久・向台小
丹 晴幸

豊かな自然に囲まれ、協力的な保護者や地域の皆様に支えられながら、素直で元気な子供たちと熱意あふれる教職員の明るい声が響きわたる。そんな向台小学校に勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しております。

校訓の「笑顔 夢 感謝」を大切に、魅力ある学校づくりに精進してまいります。



牛久・神谷小
佐々木 香織

神谷小学校の校歌の一節に「白い雲 光をのせて 走つて」とあります。明るく、生きるエネルギーに満ちた子どもたちの姿は、まさに、光そのもののように入ります。この光が輝き続けられるように、教職員がしなやかな一枚岩となり、「未来をたくましく生き抜く力をもった児童の育成」に取り組んでまいります。



牛久・牛久南中
遠藤 弘太郎

本校の生徒は、学校周辺の豊かな緑、生徒を温かく見守る地域の方々に支えられ、のびのびと過ごすことができます。また、教職員も温かく、丁寧に指導しており、私自身、身が引き締まる思いです。生徒が近い将来、社会人として生き抜くための力を身に付けられるよう、強い覚悟をもって学校経営に努めて参ります。



牛久・ひたち野うしく中
岩崎 哲雄

ひたち野うしく中学校への赴任、明るく向上心がある生徒、活気がある教職員との出会いに、日々喜びを感じています。本校は、地域活動室があり、地域の方が集う学校です。社会に開かれた教育課程を推進し、「生徒が、夢や目標の実現に向かって、生き生きと学ぶ学校づくり」に全力で取り組んでまいります。



つくば・栄小
君和田 裕之

地域の優しさに支えられた歴史と伝統のある栄小学校に赴任し、充実感とともに自らの責任の重さを実感しています。地域とともにある学校を推進しながら、学校教育目標「認め合い、学び合い、自分で考え行動する児童の育成」に向けて、気力溢れる教職員とともに、全力で取り組んでまいります。



つくば・手代木南小
石田 容之

明るく生き生きとした児童、協力的な保護者や地域の方々、そして意欲的な教職員。人と自然に恵まれた手代木南小学校に赴任できた感謝とともに職責の重さを感じております。「よりよい未来を築くために人を育てる」ことを目標に、様々な方の力を借りながら全力で取り組んでまいります。



つくば・前野小
国府田 誠一

校門にある、二本のクスノキの巨木に見守られた前野小学校は、地域とともに歩んできた伝統校です。地域の方々に協力をいただきながら、各機関と連携をとり、本物からの学びを大切にしていきたいです。そして、児童も教職員も「前野小でよかった」と実感できるように取り組んでまいります。



つくば・二の宮小
神林 ふじ子

二十数年前に勤務していた二の宮小学校に再び勤務できることに、懐かしさと喜びを感じています。校長として「和顔愛語」での関わりを大事にし、明るく元気な子供たちと協力的な保護者や地域の方々、同僚性の高い職員と、共に考え、「笑顔と元気、対話で学ぶ楽しい学校」づくりに取り組んでまいります。



つくば・東小
岡野 正人

研究学園都市の研究施設と緑に囲まれ、明るく素直な児童、熱意あふれる教職員、協力的で熱心な保護者の方々との出会いに感謝するとともに、その職責の重さを感じております。教育目標である「自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」を目指し、温かく笑顔あふれる学校づくりに取り組んでまいります。



つくば・荃崎三小
木村 和江

心地よい鳥のさえずり、季節で姿を変える桜並木の向こうに広がる校舎、自然の美しさが溢れる荃崎第三小学校に勤務できますこと、このうえない喜びとともに、職責の重さを実感しております。未来社会を担う子どもたち一人一人の幸せのため、教職員や保護者、地域の皆様と手を携えて、誠心誠意努めてまいります。



つくば・研究学園小
渡部 哲

素直で明るい児童、協力的な保護者、やる気に満ちた教職員に支えられた研究学園小学校に赴任できたことに幸せを感じています。子供も保護者も教職員もみんなが幸せを実感できる学校を目指し、安心で知的楽しさに満ちた学校づくりに尽力してまいります。



つくば・高崎中
片山 敬介

この度、つくば市立高崎中学校に赴任いたしました片山 敬介です。

私はこれまで、「教育は人なり」を胸に教育活動にあたってきました。子供を、保護者を、そして職員を大切にする、そんな学校経営ができるよう全身全霊で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。



つくば・春日学園義務
増田 真智子

一年生から九年生までの児童生徒が共に学び合い、成長できる春日学園義務教育学校に勤務できることに大きな喜びとともに責任の重さを感じています。教職員と保護者、地域の皆様と手を取り合いながら、児童生徒一人一人が主役となる「みんなが幸せを実感できる学校」を目指し、誠心誠意取り組みます。



守谷・大野小
嶋田 知成

本校は今年、創立一三五年を迎える歴史と伝統のある学校です。子どもたちが「やればできる」という小さな成功を積み重ね、自信を育むことができるあたったかい教育を大切にしています。保護者や地域の方々とのつながりを大切にしながら、子どもたちがのびのびと成長できる学校を目指しています。



守谷・郷州小
村松 静

「子供も教職員も毎日、笑顔で過ごせる学校」を目指し、変化に対応できるよう既成概念に捉われず様々な事にチャレンジしたいと思っています。感謝の言葉が織りなす温かい学び舎で、一人一人の可能性を大きく伸ばします。また、子供を真ん中に保護者と対話を重ね地域と共に連携し、未来を創造します。



守谷・松前台小
渡辺 邦広

明るくやさしい子どもたちや人間性豊かで熱意あふれる教職員、協力的な保護者や地域の方々によって松前台小学校に勤務できることに喜びと責任の重さを感じています。「社会の変化にしっかりと対応し、たくましく生きる力を育む学校づくり」を目指して、教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



守谷・松ヶ丘小
深澤 陽子

一五年前に勤務させていただいた思い出の本校に、今度は校長として勤務させていただける喜びは言葉では言い尽くせません。当時のかわいい教え子たちが保護者として協力してくれます。児童も職員も「今日も学校に来てよかったな。明日の学校も楽しみな。」と思えるような魅力的で安心感溢れる学校を目指します。



守谷・愛宕中
小林 優子

野鳥の森に囲まれた、緑あふれる愛宕中学校は、鳥のさえずりが心地よく響きます。この素晴らしい環境の中、校訓「時を守り 場を清め 人を敬う」のもと、生徒の思いに寄り添い、生徒一人一人の学びを最大限に引き出すことのできる「個が生きる、幸せな学校づくり」に邁進いたします。



守谷・御所ヶ丘中
澤木 努

毎朝校門の前に立つっていると、生徒たちの元気な挨拶で一日が始まります。このような生徒たちと熱意ある教職員、温かく協力的な保護者、地域の皆様に支えられながら勤務できることに喜びを感じております。「二人一人を大切に、笑顔あふれる活力ある学校」を目指し、「チーム御所ヶ丘」全員で取り組んでまいります。



かすみがうら・霞ヶ浦北小
浅倉 慈男

統合一〇年目の節目の年から、霞ヶ浦北小学校に勤務できる喜びを感じるとともに、その職責の重さを日々感じております。

学校に関わってくださっている方々に感謝しながら「自ら学び心豊かでたくましい子どもの育成」を目指し、児童の笑顔がやぐやぐ学校となるよう、教職員と共に全力で取り組んでまいります。



かすみがうら・霞ヶ浦南小
高貴 格

豊かな自然に恵まれ、明るく元気な子供たち、意欲あふれる教職員、温かく協力的な保護者・地域の皆様に支えられながら、勤務できる喜びと職責の重さを日々実感しております。学ぶことに興味や関心をもち、よさを認め合い、将来を切り拓く児童を育成できる学校づくりに全力で取り組んでまいります。



つくばみらい小張小
小杉 正憲

創立一四一年となる小張小学校は歴史と伝統があり、地域の皆様に愛され、支えられている学校です。その温かさに働きがいを実感しながら職務にあたっております。その中で「児童第一 教職員にやりがいを 保護者や地域から信頼を」を合い言葉に、「笑顔と感動に満ちた明日が待たれる学校」づくりに努めてまいります。



つくばみらい豊小
佐伯 鉄夫

創立一四〇周年を迎えた歴史と伝統のある豊小学校に勤務できることの大きな喜びとその職責の重さを感じております。本校の教育目標である「自ら伸びようとする子どもの育成」に向け、小規模校のよさを生かし、「子どもたちの幸せ」のため教職員、保護者、地域とともに精一杯取り組んでまいります。



つくばみらい谷和原小
木澤 勝徳

素直で明るくきちんと話を聞ける子供たち、熱意のある教職員協力的な保護者・地域の方々に支えられ、谷和原小に勤務できる喜びと同時に、校長としての責任の重さを改めて実感しています。子供たちにとって、安心安全で笑顔で生活できる学校を目指して、教職員が一致団結して、精一杯努力してまいります。



つくばみらい福岡小
黒田 雅己

休み時間。七八名の全校児童と教職員とが、校庭で思い思いに遊び始めます。子供も大人も学年も垣根なく、皆が純粋に笑顔で楽しんでいる姿には心が和みます。保護者や地域の方々にも温かく見守られ、職責の重さとともに、福岡小に勤務する喜びを感じています。子供も大人も、皆が成長し合える学校づくりに尽力します。



つくばみらい小絹中
会沢 裕之

日本が直面している正解のない課題。生徒には、学校で身に付けた知識や技能を活用し、様々な立場の人々と関わり、最適な解を見出し幸せになつてほしいです。そのため、生徒を第一に考える本校の教職員と、学校への協力を惜しまない保護者や地域の方々と共に、未来を生きるための生徒を育てる学校を目指します。



稲敷郡・本郷小
山本 隆弘

五九五名の元気な児童、協力的な保護者や地域の方、熱意あふれる教職員に囲まれ、本校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。「できなかったことができるようになる学校づくり」を目指し、全教職員一丸となり「笑顔いっぱい 幸せいっぱい」を合い言葉に教育活動に取り組んでまいります。

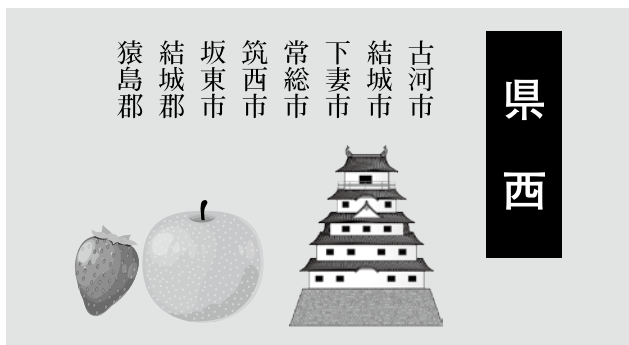


稲敷郡・竹来中
岡野 友浩

以前勤務していた竹来中に再び勤務できる喜びと校長としての責任の重さを日々感じています。「心の居場所となる学校づくり」、「安全・安心な学校づくり」「学ぶ楽しさを体感できる授業づくり」を学校経営の柱とし、主体的でたくましい心豊かな生徒の育成に向けて、全職員一丸となつて取り組んでまいります。



古河市・下妻市
常総市
筑西市
坂東市
結城郡
猿島郡



古河・古河第五小
杉山 康三

本校は「あかるく すなおな五小の子」を学校教育目標に掲げ、令和七年度は全校児童一〇九名でスタートしました。保護者や地域の皆様の協力、そしてやる気に満ちた教職員に支えられて、伝統ある古河五小に勤務できる喜びを実感しています。古河五小だからこその教育活動に全力で取り組んでまいります。



古河・下大野小
大里 友美

創立一三六周年の下大野小学校。元氣よくあいさつをする子どもたち、協力的な地域や保護者の方々、熱意あふれる教職員に恵まれ、勤務できることに喜びと職責の重さを実感しています。児童も職員も「笑顔が一番」を合い言葉に、一人一人が輝き、未来を拓く力を育む学校、地域に愛される学校を目指し、全力で取り組みます。



古河・駒羽根小
栗原 正典

「校長先生、見て、見て。」と誇らしげに逆上がりをする一年生のキラキラした瞳。「この班は登校するときの列がまっすぐで素晴らしい。班長さんありがとう。」と声をかけたときの六年生の柔らかい笑顔。駒羽根小学校の子どもたちに誇りをもち、大切に育てたい。新米校長として、そんな思いに満ちあふれています。



古河・水海小
梁河 昌彦

母校であり、保護者としても関わってきた水海小学校に勤務できる喜びと、その職責の重さを強く実感しております。

「子供たちに体験活動を」を合い言葉に、情熱のある教職員、協力的な保護者、そして心温かい地域の方々と共に、一六〇名の子供たちのために、全力で日々の教育活動に取り組んでいます。



古河・総和北中
菊池 雅美

素直で心優しい生徒たち、熱心な教職員、温かく支えてくださる保護者や地域の皆様。本校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。

本校の教育目標「豊かな心をもち、夢に向かって主体的に行動できる生徒の育成」の実現に向け、「チーム総北」で精一杯努めてまいります。



古河・三和東中
荒井 幸枝

進んで挨拶のできる生徒たち、熱意ある教職員で四月をスタートしました。以前、勤務していたこともあり、保護者・地域の方々から「お帰りなさい」と声をかけられました。あらためて、三和東中学校に勤務できる喜びと職責の重さを実感しております。「笑顔・挨拶・感謝」を大切にした学校づくりに尽力します。



結城・上山川小
本橋 裕子

「おはようございます」の元気な声が響きわたる上山川小学校で一日をスタートできることに幸せを感じております。「笑顔で あそべ」を合い言葉に、素直な子どもたち、熱意あふれる教職員、温かく支えてくださる保護者や地域の皆様とともに、一丸となって笑顔あふれる学校づくりに取り組んでいます。



古河・西牛谷小
小野澤 弘之

「はあと大作戦」を合い言葉に、「③なしをよく聞く」「④いさつで心をつなぐ」「⑤きを大切に」を実践する子供たち。日々明るく元気に活躍する彼らの傍に寄り添う教職員。そして、温かく見守ってくださる地域の方々。この恵まれた環境の中で、二・三・四の子供たちの可能性を拓くために全力で取り組んでいます。



古河・仁連小
石川 順子

一九六名の明るく元気な子供たち、温かく協力的な保護者や地域の皆様、熱意あふれる教職員に囲まれ、仁連小学校に勤務できる喜びと職責の重さを実感する毎日です。

今年度のキーワードは「笑顔」。子供たち、保護者そして、教職員が笑顔あふれる楽しい学校づくりを目指し、尽力いたします。



古河・三和北中
西 俊隆

本校は、「自主 向学 至誠」を校訓に掲げ、創立四一年を迎えました。生徒たちは、素直で明るく毎日澁刺とし、教職員は活気に満ちあふれています。

生徒、職員、保護者、地域が磨き合い・響き合い・高め合うことで、生徒の主体性を育むとともに活力ある学校をつくってまいります。



結城・江川南小
鈴木 敦子

「安全・安心で一人一人が育つ学校」を目指し、学校に関わる全ての方々と目標を共有して邁進いたします。特に、児童の「自己肯定感・自己有用感」の育成、教職員の資質・働きがいの向上、保護者・地域の方々との連携・協働を図ってまいります。「この学校でよかった」と思ってもらえる学校となるよう全力を尽くします。



結城・城西小
藤田 清一

本校は、豊かな自然に囲まれ、温かい地域の皆様を支えられている学校です。学校教育目標「共に学び 進んで挑戦 思いやりいっぱい」の城西っ子の育成」を実現するために、「今をがんばる」を合い言葉に、一人一人の児童・保護者、教職員を大切にして、明るく活力ある学校づくりを推進してまいります。



下妻・大宝小
小島 秀一

「おはようございます！」道路を渡る子供たちと元気なあいさつを交わすことから一日が始まります。大宝小に赴任し、喜びと職責の重さを実感しております。

子供たちが生き生きと活動し、教職員が毎日笑顔で子供たちを支援できる、活力ある学校づくりを目指し、教職員一丸となって取り組んでまいります。



下妻・上妻小
森田 勝

素直で明るい子供たち、熱意ある教職員、温かく協力的な保護者、地域の皆様に囲まれ、伝統ある上妻小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じています。「花と笑顔」と思いやり」を合い言葉に、「将来に向けて心豊かに学びたくましく生きる児童の育成」を目指して、教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



下妻・騰波ノ江小
助川 仁史

創立一〇二年の歴史と伝統ある騰波ノ江小学校に勤務できることへの感謝の気持ちとともに、職責の重さを実感しております。

学校を応援し、温かく支えてくださる保護者や地域の方々と、熱意ある教職員と一丸となって、「子どもたち一人一人が輝き魅力ある学校づくり」に全力で取り組んで参ります。



下妻・千代川中
渡辺 宏之

「百花繚乱 夢を力に 志は高く」を合い言葉に、何事にも前向きにチャレンジする素敵な生徒たちとの出会いに感動しています。

生徒に愛情をもつて関わる教職員、温かく協力的な保護者、地域の方々と力を合わせ、生徒一人一人の可能性を引き出し、夢を実現に導く学校づくりに精一杯努力してまいります。



常総・水海道小
木村 弘幸

県立歴史館にも旧本館が移築されており、創立一五三年を迎える歴史と伝統ある本校に勤務できる喜びと責任の重さを感じております。未来を担う子どもたちのために、保護者を含めた地域の方々と手を取り合いながら、「笑顔と活力ある学校づくり」に教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



常総・大生小
中田 恵美子

創立一三六周年を迎える歴史と伝統ある大生小学校に勤務できる喜びと、その職責の重さを感じております。

「人を大切にした学校づくり」をモットーに、子どもたちの個性を輝かせ、色とりどりの花を咲かせられるよう、教職員一丸となつて、全力で取り組んでまいります。



常総・岡田小
間中 則子

保護者と地域の皆様に温かく支えていただきながら、三三〇名の素直で明るい児童、チームとして成長できる教職員と共に、伝統ある岡田小学校に勤務できることの喜びと職責の重さを感じています。子供たちの笑顔を大切に、児童が主体となる魅力ある学校づくりに全力で取り組んでまいります。



常総・豊田小
松田 朋子

自然豊かで、人の温かさにあふれたこの豊田の地に、校長として勤務できる喜びを感じています。日々成長する子供たちの姿にわくわくしながら、「いつの時代も幸せになれる子」の育成を目指し、教職員、保護者・地域の皆様とともに、「笑顔いっぱい、チャレンジいっぱい、みんな仲良し豊田小」の実現に努めてまいります。

豊かな自然に恵まれた創立五八年目を迎える石下西中学校に赴任できたことに、喜びとともに職責の重さを実感しています。



常総・石下中
柴崎 一成

伝統ある石下中学校での勤務となり、二九六名の元気な生徒と三七名の情熱ある職員と共に過ごせることに感謝いたします。

学校教育目標「豊かな心と確かな学力で夢を育てる生徒の育成」を目指して、「夢中の先に答えあり」を合い言葉に、保護者・地域の皆様と一体となり生徒一人一人の夢の実現に取り組んでまいります。



常総・石下西中
入江 宏

本校の教育目標「夢をもち、学びを大切にする、心豊かでたくましい生徒の育成」の実現に向け、未来を担う子供たちのために全職員が一丸となって取り組んでまいります。

本校の教育目標「夢をもち、学びを大切にする、心豊かでたくましい生徒の育成」の実現に向け、未来を担う子供たちのために全職員が一丸となって取り組んでまいります。



筑西・竹島小
大山 実花

創立一三九年を迎える歴史と伝統のある竹島小学校に、勤務できる喜びと感謝を日々実感するとともに、自身に課せられた職責の重みを痛感しております。

「主体的に学び心豊かで活力ある竹島つ子の育成」を目標に、保護者、地域とのつながりを大切にしながら、いつも笑顔と感謝の心で教育活動に取り組みます。



筑西・河間小
熊城 亜衣

創立一五二年目を迎える歴史と伝統のある河間小学校。五四名の子供たち、熱意ある教職員、温かい保護者や地域コミュニティの方々に囲まれて勤務できる喜びを実感しております。体験を経験につなげながら、「学校が楽しい」「学校が大好き」と思える学校づくりの実現に向け、笑顔を大切に、精一杯尽力してまいります。



筑西・小栗小
高木 真由美

明るく素直な子どもたち、熱意ある教職員、温かく協力的な保護者や地域に囲まれた母校に勤務できることに、この上ない喜びと職責の重さを感じております。

子どもたちも教職員も、「明日もまたここに来たい。」と思える学校を目指し、一人一人のよさや可能性を伸ばせるよう「チーム小栗」で取り組んでまいります。



筑西・下館西中
宮山 理

明るい生徒たち、熱意ある教職員、協力的な保護者・地域の方々に支えられ、下館西中学校に勤務できる喜びとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いです。「高い志と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成」に向けて、保護者・地域の皆様と連携し、全教職員一丸となって取り組んでまいります。



筑西・協和中
武井 勉

今年度、協和中学校長を拝命いたしました。学校名の通り、生徒一人一人が力を合わせ「協」、心を一つにする「和」の精神を、学校運営の根幹に据え、日々邁進しております。多様な価値観が創造される現代社会において、「協和」の力を礎に、新たな学びやつながりを築きながら、未来を生きる力の育成に努めてまいります。



坂東・七重小
須貝 裕美

毎朝、児童の登校を見守る保護者や地域の方々との楽しい会話で一日が始まります。大切に守り育てられた素直でやさしい七重小の児童との出会いに感謝し、支え合い、信頼し合う心の育成を図りながら、児童が楽しく、安心して過ごせる学校づくりに、教職員一丸となって取り組んで参ります。



坂東・中川小
中村 卓哉

樹齢一二〇年を超える「ノダフジ」がシンボルの、歴史と伝統ある中川小学校に勤務できる喜びとその職責の重さを日々実感しております。

明るく熱意ある教職員、温かく協力的な保護者や地域の方々との力を合わせ、誰もが「学校が楽しい」と思える、魅力ある学校づくりに努めてまいります。



坂東・逆井山小
岸本 眞寿

元気で素直な児童、協働的な教職員、協力的な保護者や地域の方々に囲まれ、伝統ある逆井山小学校に勤務できることの喜びと職責の重さを感じています。児童が過ごしやすい学校、保護者や地域から信頼される学校、教職員が働きやすい学校となるよう、「チーム逆小」として、全力で取り組んでまいります。



結城郡・川西小
石澤 功

明るく、元気で素直な子供たち、熱意ある教職員、温かく協力的な保護者様・地域の皆様を支えられ、本校に勤務できる喜びと職責の重さに身の引き締まる思いです。川西小の合言葉「あいさつ・そうじ・思いやり」を大切に、魅力ある、笑顔あふれる学校づくりに教職員一丸となって全力で取り組んでまいります。



猿島郡・猿島小
和気 健一

素直で優しい子供たちと情熱ある教職員、学校を温かく支援してくださる保護者・地域の皆様に支えられた猿島小学校に勤務できる喜びと職責の重さを感じております。学校教育目標の具現化に向け、児童、教職員一人一人を大切にしながら、笑顔あふれる学校づくりに全力を尽くします。



猿島郡・静小
吉原 寿子

十三年ぶりに戻ってきた静小は、変わらずに良い学校です。素直な子どもたち、協力的な保護者、郷土愛に溢れた地域の方々、そして、活力ある教職員に支えられ、日々やりがいと感謝をかみ締めています。「夢をはぐくみ、夢に近づくために」を合い言葉に、学校と地域が協働し、未来を担う「静の子」を育成していきます。



猿島郡・五霞中
南城 ひろみ

昨年度より五霞小学校と施設一体型の小中一貫校となった五霞中学校へ再び勤務できる喜びとともに、その責任の重さを感じております。

小中一貫校としてのよさをいかし、子どもたち一人一人を大切にしたい地域とともにある学校づくりに、教職員一丸となって全力で取り組みでまいります。

再任会員名簿

(敬称略)

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
郡市名	河原井信幸	影山 敬久	瀧 健一	笠間市	笠間市	ひたちなか市	日立市	常陸太田市	鹿嶋市	鹿嶋市	神栖市	銚田市	行方市	石岡市	龍ヶ崎市	取手市
学校名	浜田小	酒門小	第一中	笠間小	笠間中	勝田第中	台原中	太田小	峰山中	鹿島中	息栖小	銚田北小	麻生中	園部小	長山中	取手小
氏名	河原井信幸	影山 敬久	瀧 健一	加藤 宗治	持丸 正美	飯村 祐一	横山 勉	山崎 誠	和田 秀彦	内野 武	大槻 憲永	若松 裕一	大崎 雅之	岡田 了子	宮本 浩貴	園山 和彦

No.	17	18	19	20	21	22	23	24	25
郡市名	つくば市	守谷市	古河市	下妻市	下妻市	下妻市	常総市	筑西市	筑西市
学校名	竹園東小	黒内小	古河第三小	下妻小	下妻中	東部中	水海道中	下館小	中 小
氏名	山田 仁巳	古橋 雅文	寺田 一宣	中澤千佳子	圓崎 佳江	福田 恭子	袖山 文広	池田いずみ	仲田 郁夫

令和七年度 学校長会役員

会長	鈴木 宏(水三の丸小)
副会長	藤枝 祥子(水第二中)
副会長	平子 剛之(日・助川小)
副会長	遠藤 智幸(行・玉造中)
副会長	唯根 正(牛久第二中)
副会長	須藤 恵美(結城南小)
監事	中根 泰司(水常澄中)
監事	坪 聡美(常太里美小中)
監事	藤代 茂(神・須田小)
監事	岡田 太郎(竹園東中)
監事	吉原 寿子(境・静小)

下段右より..

藤枝 祥子 副会長
鈴木 宏一 会長
平子 剛之 副会長

上段右より..

須藤 恵美 副会長
唯根 正一 副会長
遠藤 智幸 副会長

令和七年度

(二財)茨城県教育センター
(教育プラザいばらき内) 職員

理事長 東小川昌夫
副理事長 坂場 克身
事務局 木村 明弘
主幹(学校長会担当) 川又 宏文
主幹(全連小等担当) 片岡 寿夫
主幹(教育研究会担当) 豊田 雅之
主幹(校長会研究会担当) 佐々木有香
主幹(教育センター担当) 石島久美子



編集後記

先行き不透明な時代を感じさせる事件や事故などのニュースが増え、予測困難な日々が続きます。それでも「すべての子どもたちの可能性を引き出す活力ある学校づくり」に各学校とも取り組まれていることと思います。

義務教育課副参事 太田雅彦先生の玉稿、新会員一三五名の皆様のお言葉、そして学校経営の工夫や教育委員会との連携をご紹介くださった先生方、PTAに関する寄稿をいただいた会長様など、多くの皆様の深いご理解と温かいご協力により第二六二号が発行できました。

今年度も学校長会の取組等を紹介し、会員相互の情報共有やより多くの皆様への情報発信の一助となりますように、担当者一同、努めてまいります。

年度始めのご多用の中、原稿をお寄せいただきました皆様、校正や修正等に関わっていただきました皆様に心より感謝申し上げます。



教育プラザいばらき